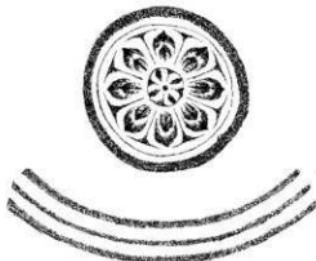


宮城県仙台市

# 郡山遺跡 42

— 令和3年度発掘調査概報 —  
郡山遺跡・陸奥国分寺跡



2022.3

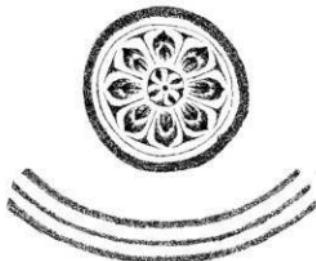
仙台市教育委員会



宮城県仙台市

# 郡山遺跡 42

— 令和3年度発掘調査概報 —  
郡山遺跡・陸奥国分寺跡



2022.3

仙台市教育委員会



## 序 文

日頃より仙台市の文化財行政に対しご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。市内には数多くの遺跡が確認されており、遺跡に眠る埋蔵文化財はその時代に住んでいた人々の痕跡を伝えるものです。当委員会といたしましては皆様のご理解とご協力を得て、大切な文化財を保存し、後世に伝え、また活用を図り、その価値を生かしていく所存です。

本報告書には、郡山遺跡・陸奥国分寺跡の発掘調査の成果を収録しています。

郡山遺跡は、地方官衙としてはわが国でも最古段階の重要な遺跡です。郡山遺跡の発掘調査事業は、幻の城柵としての一端をあらわした昭和 54 年の最初の調査から 43 年目を迎えた。その後継続的に実施してきた発掘調査により、古代の文献に記録のない“幻の城柵”はまさに“甦る城柵”として私たちの前に姿を現してきました。また、その価値が明らかになつたことで、平成 18 年には国史跡「仙台郡山官衙遺跡群 - 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡 -」として指定されています。

また、東日本大震災から 10 年が過ぎ、その間中断されていた国史跡・陸奥国分寺跡の範囲確認調査が再開されました。陸奥国分寺跡は全国で確認されている国分寺跡として最北の遺跡で、令和 4 年で国史跡指定 100 周年を迎えます。

さらに令和 2 年度からは震災以降中断していた郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会も再開され、様々な分野の有識者の皆様にご指導いただきながら調査および史跡整備を進めているところです。

そのような中で新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るい、今年度も文化財活用関係の行事や見学等については見送るケースも相次ぎました。しかし感染症対策を十分に講じながら史跡内の範囲確認調査等の野外調査は実施することができました。本書はそれらの調査結果を報告・公開するものです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書刊行に際して、ご協力、ご助言いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

令和 4 年 3 月

仙台市教育委員会  
教育長 福田 洋之



## 例　　言

1. 本書は、国庫補助事業における市内遺跡調査のうち、郡山遺跡・陸奥国分寺跡の史跡内での範囲確認調査に加え、郡山遺跡内の個人住宅建築工事に関連した発掘調査の報告である。
2. 本概報は調査速報を目的としている。本書の作成は調査調整係の協力を得て整備活用係がまとめた。また執筆と各作業は以下のように分担し、編集は妹尾が行った。

第1・2章II～V・3章　妹尾一樹　　第2章I　庄子裕美　　第4章　元山祐一  
遺物基礎整理～実測図作成：職員の指導のもと郡山遺跡発掘調査事務所作業員  
遺物観察表作成：庄子、元山、妹尾　　遺物写真撮影：妹尾  
遺構図トレイス・図版作成：庄子、妹尾、職員の指導のもと郡山遺跡発掘調査事務所作業員  
遺構註記表作成：庄子、元山、妹尾
3. 本書の内容は既に公開されている遺跡見学会資料や各種の発表会資料に優先する。
4. 本書に係る出土遺物や実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 断面図の標高値は、海拔高度を示している。
2. 図中の座標値は世界測地系を使用している。しかし、第2章の図中に示した座標系は、郡山遺跡でのこれまでの調査との整合性を保つため、任意の原点(X=0,Y=0)を通る磁北線(1984年頃の偏角で、真北から $6^{\circ} 44' 7''$ 西傾)を基準にして設定された座標値を記している。
3. 文中の方位は、真北を基準としている。また、図中の方位に「☆」を付したものは真北を示している。
4. 遺構の略称は次のとおりである。郡山遺跡の遺構番号はこれまで調査された調査区を通しての番号順であるが、ピットは調査区毎としている。

SA：柱列・板塀　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SE：井戸跡　SK：土坑　SI：竪穴住居跡  
SX：性格不明遺構　P：ピット・柱穴
5. 遺物の略号は次のとおりである。

A：縄文土器　C：土師器（ロクロ不使用）　D：土師器（ロクロ使用）・赤焼土器　E：須恵器  
F：軒丸瓦・丸瓦　G：軒平瓦・平瓦　K：石製品　N：鉄製品　P：土製品
6. 土師器実測図における網掛けは、黒色処理を示している。その他の付着物や痕跡は図中に表記している。
7. 遺物観察表中の法量で（ ）が付いた数字は、図上で復元した推定値ないし残存値である。
8. 遺物写真的縮尺は、遺物図版に掲載した同一個体のそれに準ずる。写真掲載のみの遺物は、特別な記載がない限り3分の1で掲載している。
9. 遺構観察表中の土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原 1989）を使用した。
10. 第1図は国土地理院発行の1:25000「長町」を、また第2図および各調査区位置図は仙台市発行の「2千5百分の1都市基本図」をそれぞれ修正し使用した。

## 目 次

### 第1章 はじめに

|             |         |
|-------------|---------|
| I. 調査体制     | 1       |
| II. 調査計画と実績 | 1       |
| 1. 調査計画     | 2. 調査実績 |

### 第2章 郡山遺跡

|                   |         |
|-------------------|---------|
| I. 第308次発掘調査      | 4       |
| 1. 調査経過と調査方法      | 2. 基本層序 |
| 3. 検出遺構と出土遺物      | 4. まとめ  |
| II. 第309・311次発掘調査 | 16      |
| 1. 調査経過と調査方法      | 2. 基本層序 |
| 3. 検出遺構と出土遺物      | 4. まとめ  |
| III. 第310次発掘調査    | 20      |
| 1. 調査経過と調査方法      | 2. 基本層序 |
| 3. まとめ            |         |
| IV. 第312次発掘調査     | 21      |
| 1. 調査経過と調査方法      | 2. 基本層序 |
| 3. 検出遺構と出土遺物      | 4. まとめ  |
| V. 第313次発掘調査      | 27      |
| 1. 調査経過と調査方法      | 2. 基本層序 |
| 3. 検出遺構と出土遺物      | 4. まとめ  |
| 第3章 陸奥国分寺跡        | 40      |
| I. 第31次発掘調査       |         |
| 1. 調査経過と調査方法      | 2. 基本層序 |
| 3. 検出遺構と出土遺物      | 4. まとめ  |
| 第4章 調査成果の普及と関連活動  | 52      |

## 第1章 はじめに

### I. 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 文化財課長 都丸晃彦 主査（調整担当）長島栄一

整備活用係 係長 工藤慶次郎 主査 元山祐一、小浦真彦 主任 堀越研、勝又康

主事 五十嵐愛、妹尾一樹 専門員 荒井格

調査調整係 係長 平間亮輔 主査 及川謙作、近藤勇亮、菅原祥太 主任 堀江洋介

主事 庄子裕美、澤目雄大、相川ひとみ、柳澤楓、木村恒、早川太陽

専門員 斎野裕彦 会計年度任用職員 篠原信彦

本報告書に掲載する各調査の担当職員は以下の通りである。

郡山遺跡第308～310次調査：庄子裕美・元山祐一

郡山遺跡第311～313次調査・陸奥国分寺跡第31次調査：妹尾一樹・元山祐一

発掘調査・整理作業を適正に実施するため「郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会」を設置し、指導・助言を受けた。

委員長 永田英明（東北学院大学文学部教授 古代史）

副委員長 渡部育子（秋田大学教育文化学部名誉教授 古代史）

委員 荒木志伸（山形大学学土課程基盤教育機構准教授 考古学）、

北野博司（東北芸術工科大学芸術学部教授 考古学）、黒田乃生（筑波大学芸術系教授 造園）、

三上喜孝（国立歴史民俗博物館教授 古代史）、吉田歛（山形県立米沢女子短期大学教授 古代史）

### II. 調査計画と実績

#### 1. 調査計画

令和3年度に計画した本書掲載の調査は、国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」の一部として計画し、郡山遺跡を対象としている。

郡山遺跡では史跡整備に係る調査は第5次5ヶ年計画終了後に平成17年度から補足調査を実施しており、今年度は2箇所で実施した。さらに、個人住宅建築に関わる調査を実施した。また、陸奥国分寺跡では史跡整備に係る調査を断続的に行っており、今年度は2箇所で調査を実施した。

発掘調査総経費は26,718,000円（国庫補助金額13,359,000円）の予算で計画し、当初は郡山遺跡の個人住宅対応に5,262,449円、郡山遺跡の範囲確認調査に2,107,400円、陸奥国分寺跡の範囲確認調査に2,473,475円、「仙台平野の遺跡群」として郡山遺跡以外の市域全体の個人住宅対応に5,058,710円、仙台城跡調査に11,815,960円とした。これによって本書の掲載に関わる発掘調査の実施計画を立案した。

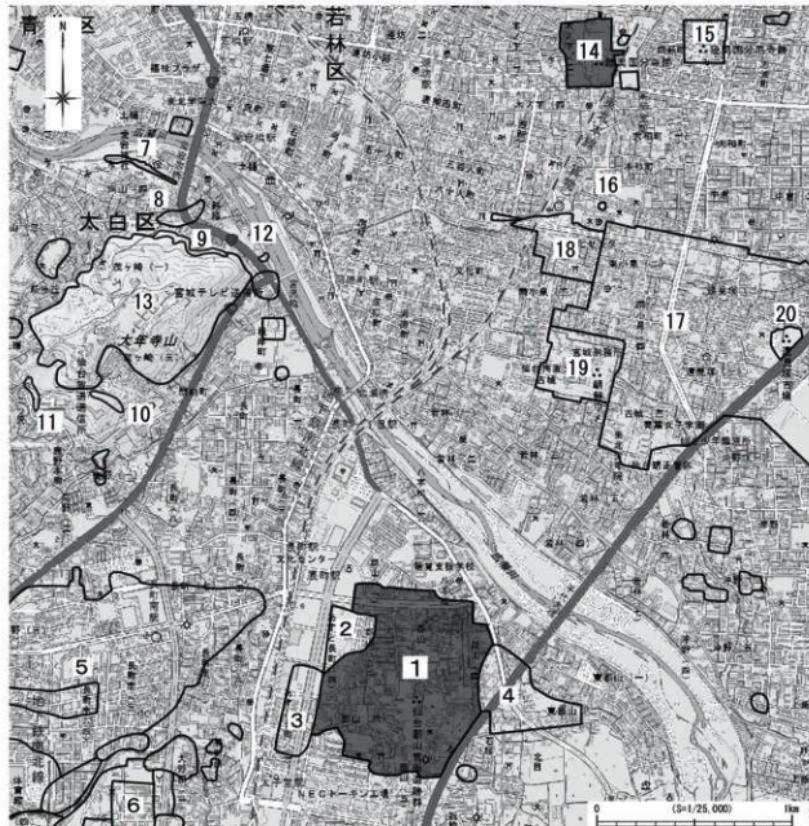
表1 令和3年度発掘調査計画

| 遺跡名    | 調査地区       | 調査予定期積             | 調査予定期間        | 調査原因   |
|--------|------------|--------------------|---------------|--------|
| 郡山遺跡   | 宮街内部など3箇所  | 150 m <sup>2</sup> | 令和3年3月～令和4年3月 | 個人住宅建築 |
| 郡山遺跡   | 日高官衙中軒部2箇所 | 150 m <sup>2</sup> | 令和3年8月～9月     | 範囲確認調査 |
| 陸奥国分寺跡 | 寺地北西部2箇所   | 150 m <sup>2</sup> | 令和3年6月～7月     | 範囲確認調査 |

## 1. 調査体制

## 2. 調査実績

郡山遺跡については、令和3年度は7箇所の調査を実施した。このうち本報告書では、国庫補助事業の対象となる個人住宅建築に関わる調査(令和2年度実施の第308～310次調査および令和3年度実施の第311・312次調査)に加え、範囲確認調査の第313次調査の報告を行う。また、陸奥国分寺跡で実施した範囲確認調査(第31次調査)の結果を本書で報告する。

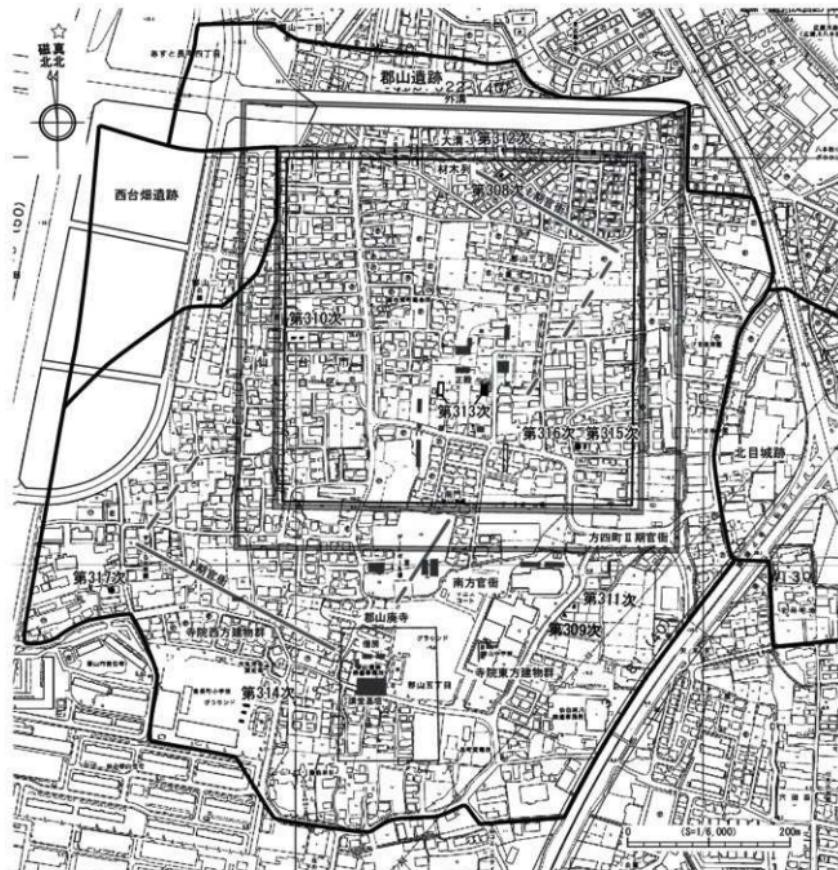


| 番号 | 遺跡名         | 種別        | 立地   | 時代     | 番号 | 遺跡名      | 種別        | 立地   | 時代          |
|----|-------------|-----------|------|--------|----|----------|-----------|------|-------------|
| 1  | 郡山遺跡        | 官衙・寺院・散布地 | 自然地帯 | 縄文～古代  | 11 | 二ツ沢横穴墓群  | 横穴墓群      | 丘陵斜面 | 古墳          |
| 2  | 西台寺遺跡       | 集落        | 自然地帯 | 縄文～古代  | 12 | 雲霧ヶ原横穴墓群 | 横穴墓群      | 田畠   | 古墳後         |
| 3  | 長谷野東遺跡      | 集落        | 自然地帯 | 縄文～古代  | 13 | 飛ヶ根城跡    | 城跡        | 丘陵   | 中世          |
| 4  | 北日出跡        | 城跡・集落・水田  | 自然地帯 | 縄文～近世  | 14 | 陸奥國分寺跡   | 寺院        | 平地   | 平安          |
| 5  | 北沢遺跡        | 集落・水田・散布地 | 自然地帯 | 縄文～近世  | 15 | 陸奥國分尼寺跡  | 寺院        | 平地   | 平安          |
| 6  | 大野寺官衙跡      | 官衙・集落・古墳  | 自然地帯 | 古墳～奈良  | 16 | 赤堀城占墳    | 円墳        | 自然地帯 | 古墳後         |
| 7  | 愛宕山横穴墓群±地点  | 横穴墓群      | 丘陵斜面 | 古墳後    | 17 | 南小坂遺跡    | 聚落・集落     | 自然地帯 | 縄文～近世       |
| 8  | 愛宕山横穴墓群±C地點 | 横穴墓群      | 丘陵斜面 | 古墳後    | 18 | 善種遺跡     | 墓葬・簡敷・散布地 | 自然地帯 | 平安、中世、近世    |
| 9  | 大平寺横穴墓群     | 横穴墓群      | 丘陵斜面 | 古墳後    | 19 | 若林城跡     | 城跡・古墳・集落  | 自然地帯 | 古墳、平安、中世、近世 |
| 10 | 浅ヶ崎横穴墓群     | 横穴墓群      | 丘陵斜面 | 古墳後～鉄器 | 20 | 湯尻塚占墳    | 前方後円墳・散布地 | 自然地帯 | 弥生・古墳中      |

第1図 郡山遺跡・陸奥國分寺跡と周辺の主な遺跡

表2 令和3年度発掘調査実績（一部前年度実績を含む）

| 調査回数       | 調査地区     | 調査面積                | 調査期間              | 調査原因   | 対応              |
|------------|----------|---------------------|-------------------|--------|-----------------|
| 郡山遺跡第308次  | II期官衙北部  | 22.8 m <sup>2</sup> | 令和2年11月4日～12月11日  | 個人住宅建築 | 郡山遺跡は小調査        |
| 郡山遺跡第309次  | 郡山遺跡南東部  | 14 m <sup>2</sup>   | 令和2年2月24日～2月25日   | 個人住宅建築 | 郡山遺跡は小調査        |
| 郡山遺跡第310次  | II期官衙西部  | 29 m <sup>2</sup>   | 令和3年3月9日～3月10日    | 個人住宅建築 | 歴史復興民文化財査定調査の成果 |
| 郡山遺跡第311次  | 郡山遺跡南東部  | 10 m <sup>2</sup>   | 令和3年5月24日         | 個人住宅建築 | 郡山遺跡は小調査        |
| 郡山遺跡第312次  | II期官衙北辺  | 16 m <sup>2</sup>   | 令和2年7月26日～8月5日    | 個人住宅建築 | 郡山遺跡は小調査        |
| 郡山遺跡第313次  | II期官衙中央部 | 275 m <sup>2</sup>  | 令和2年8月18日～10月19日  | 遺構確認   | 範囲確認調査          |
| 郡山遺跡第314次  | 郡山遺跡南西部  | 63.9 m <sup>2</sup> | 令和2年11月14日～12月11日 | 校舎増築   | 開発に伴う事前調査       |
| 郡山遺跡第315次  | II期官衙東部  | 14 m <sup>2</sup>   | 令和4年1月1日～1月21日    | 個人住宅建築 | 郡山遺跡は小調査        |
| 郡山遺跡第316次  | II期官衙東部  | 28.8 m <sup>2</sup> | 令和4年3月18日～3月18日   | 個人住宅建築 | 郡山遺跡は小調査        |
| 郡山遺跡第317次  | 遺跡南西部    | 21.3 m <sup>2</sup> | 令和4年2月18日～2月17日   | 個人住宅建築 | 郡山遺跡は小調査        |
| 諸奥寺分寺跡第31次 | 寺地北西部    | 130 m <sup>2</sup>  | 令和3年6月3日～7月20日    | 遺構確認   | 範囲確認調査          |



第2図 郡山遺跡調査地点位置図

## I. 第308次調査

### 第2章 郡山遺跡

#### I. 第308次発掘調査

##### 1. 調査経過と調査方法

個人住宅建築工事に伴い、令和2年9月14日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和2年9月18日付R2教生文第101-226号で通知)に基づき発掘調査を実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡北部に位置し、昭和56年度に調査が行われた第19次調査区と平成23年度に調査が行われた第207次調査区の北側、平成25年度に調査が行われた第245次調査区の西側に位置する。

発掘調査は令和2年11月4日に着手し、建築予定範囲内に東西4.5m、南北3.5mの規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層Ⅰ～Ⅱ層を除去後、人力によりⅢa～Ⅲb層を掘り下げたところ、須恵器など遺物が多く出土し、遺構が調査区全体に及んでいることが想定された。このような状況から、北東側に3.5m×2mの調査区を拡張した。調査では必要に応じて平面・断面図(S=1/20)を作製し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。12月11日に調査を終了し、重機で埋め戻しを行った。

##### 2. 基本層序

厚さ25～85cmの盛土の下に基本層を大別で4層確認した。遺構検出面までの深さはGL-1.0～1.2mである。Ⅰ層とⅡa層、Ⅱb層、Ⅲa層は耕作土である。

##### 3. 検出遺構と出土遺物

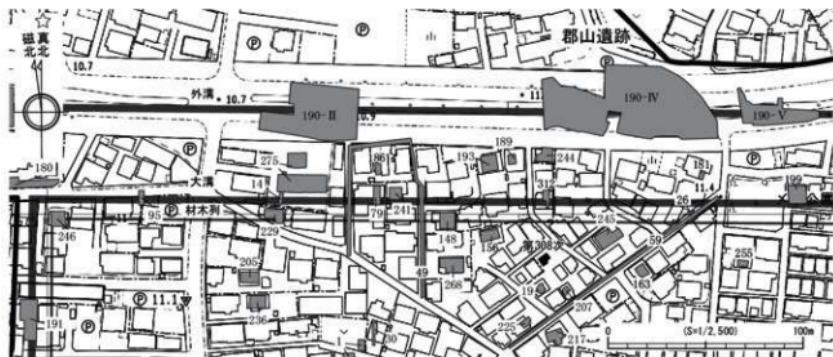
IV層上面で竪穴住居跡1軒と性格不明遺構1基、ピット1基を検出した。遺物は竪穴住居跡から土師器や須恵器、土製品、石製品、金属製品などが出土している。

##### 【S12569 竪穴住居跡】(第5～9図)

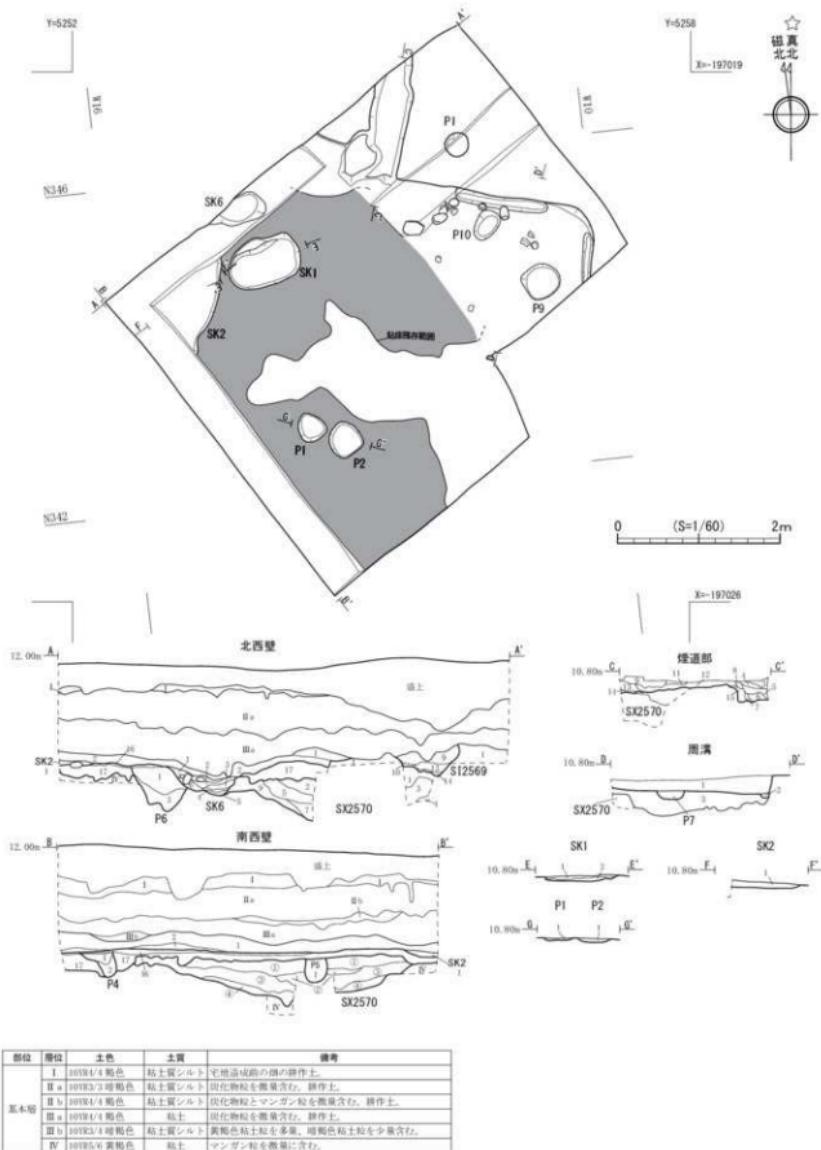
調査区のほぼ全域で検出された。竪穴住居跡の北辺の一部と東辺の一部を検出したが、南辺と西辺の大部分は調査区外にある。SX2570 性格不明遺構よりも新しい。また貼床上面と堀方埋土上面の2時期(新・古段階)で住居に伴う遺構が検出されていることから、新旧2時期の住居跡であったと考えられる。調査区外に住居が広がっているため、詳細な規模は不明だが、北壁は360cm以上、東壁は85cm以上残存している。煙道の方向はN-12°～Eである。



第3図 第308次調査区配置図



第4図 第308次調査区位置図



第5図 SI2569 積穴住居跡（新段階）平面・断面図

## I. 第308次調査

SI2569 穴六住居跡・SX2570 性格不明遺構 土層記表

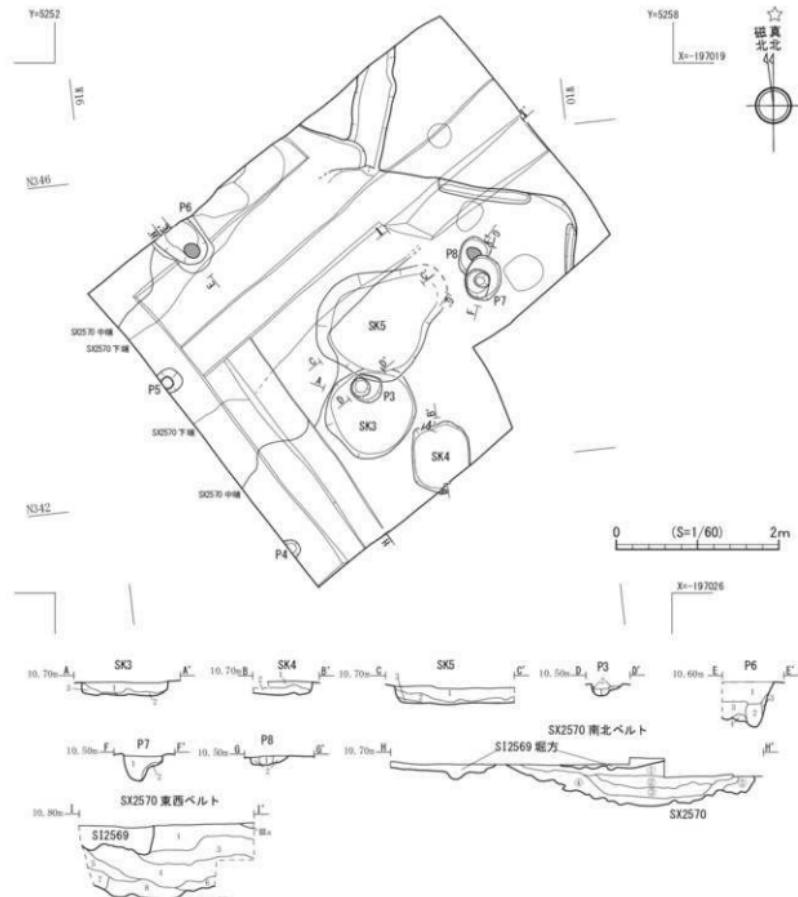
| 部位  | 層位 | 土色           | 土質 | 備考   | 部位 | 層位 | 土色                    | 土質 | 備考   |
|---|----|--------------|----|--|----|----|-----------------------|----|--|
|   | 1  | 10YR4/6 黄褐色  | 粘土 | 炭化物粒を含む。砂と砂土粒を少量化。に少し黄褐色粘土粒を少量に含む。住居堆積土。     |    | 1  | 10YR4/1 黄褐色           | 粘土 | に少し黄褐色粘土小ブロック・粒を非常に多く含む。マンガンを少量含む。             |
|   | 2  | 10YR4/4 黄褐色  | 粘土 | (1.5%) 黄褐色粘土多量。砂、細砂、炭化物粒を少量化する。              |    | 2  | 10YR4/4 黄褐色           | 粘土 | 黄褐色粘土小ブロック・粒を非常に多く含む。黒褐色粘土小ブロックと他土。炭化物粒を少量化する。 |
|   | 3  | 10YR4/1 黄褐色  | 粘土 | 粘土・炭化物粒を少量化する。カマド内堆積土。                       |    | 3  | 10YR4/4 増殖土           | 粘土 | に少し黄褐色粘土ブロック・粒を非常に多く含む。無化物粒を多量。シルト・砂を微量含む。     |
|   | 4  | 2.5YR4/4 増殖土 | 粘土 | 砂土小ブロック・粒を多量。炭化物粒を微量に含む。カマド内堆積土。             |    | 4  | 10YR3/2 黑褐色           | 粘土 | 黄褐色粘土上ブロックを多く含む。無化物粒を少量化する。                    |
|   | 5  | 2.5YR2/2 植物色 | 粘土 | 植物土ブロック・粒を多量。に少し黄褐色粘土粒。炭化物粒を少量化する。カマド内堆積土。   |    | 5  | 10YR3/3 増殖土           | 粘土 | 黄褐色粘土小ブロック・粒を少量化する。炭化物粒を微量含む。                  |
|   | 6  | 2.5YR4/3 黄褐色 | 粘土 | 粘土・黄褐色粘土多量。砂土・炭化物粒を少量化する。カマド内堆積土。            |    | 6  | 2.5YR4/3 増殖土          | 粘土 | 暗褐色粘土ブロックを多量に含む。無化物粒を少量化する。                    |
|   | 7  | 10YR4/1 黄褐色  | 粘土 | 粘土・炭化物粒を少量化する。カマド内堆積土。                       |    | 7  | 10YR4/4 黄褐色           | 粘土 | 黄褐色粘土ブロック・粒をやや多く含む。炭化物粒を微量含む。                  |
|   | 8  | 10YR4/3 増殖土  | 粘土 | 粘土・炭化物粒を微量に含む。カマド内堆積土。                       |    | 8  | 2.5YR4/2 増殖土          | 粘土 | 砂と細砂を少量化する。                                    |
|   | 9  | 10YR4/1 黄褐色  | 粘土 | 黒褐色粘土ブロックを少量化。砂土・炭化物粒を微量に含む。堆積内堆積土。          |    | 9  | 10YR3/3 増殖土           | 粘土 | 黄褐色粘土ブロックをやや多く含む。                              |
| SX2569<br>窓穴<br>堆積土<br>(A'-<br>(B')<br>(C') | 10 | 10YR3/4 增殖土  | 粘土 | 黒褐色粘土・砂土を微量に含む。カマド内堆積土。                      |    | ①  | 10YR4/2 黑褐色           | 粘土 | 炭化物粒を微量に含む。                                    |
|   | 11 | 2.5YR4/6 黄褐色 | 粘土 | 黒褐色粘土ブロックを多量。後土粒を微量含む。堆積内堆積土。                |    | ②  | 10YR3/3 増殖土           | 粘土 | 黒褐色粘土と炭化物粒を微量に含む。                              |
|   | 12 | 10YR3/4 增殖土  | 粘土 | 黒褐色粘土ブロック・黄褐色粘土小ブロックを多量。砂土・炭化物粒を微量含む。堆積内堆積土。 |    | ③  | 10YR3/4 增殖土           | 粘土 | 黒褐色粘土ブロック・粒を少量化する。炭化物粒を微量に含む。                  |
|   | 13 | 10YR3/5 黑褐色  | 粘土 | 黒褐色粘土ブロックを少量化する。堆積内堆積土。                      |    | ④  | 10YR4/4 増殖土           | 粘土 | 黒褐色粘土ブロック・粒をやや多く含む。炭化物粒を微量に含む。                 |
|   | 14 | 2.5YR4/2 黑褐色 | 粘土 | 後土粒・炭化物粒を多量に含む。堆積内堆積土。                       |    | ⑤  | 10YR3/3 増殖土           | 粘土 | 黒褐色粘土ブロック・粒を非常に多く含む。炭化物粒を少量化する。                |
|   | 15 | 10YR5/4 黄褐色  | 粘土 | 粘土・炭化物粒を少量化する。カマド内堆積土。                       |    | ⑥  | 10YR4/4 增殖土           | 粘土 | 炭化物粒・後土粒を少量化する。砂を含む。                           |
|   | 16 | 2.5YR4/2 増殖土 | 粘土 | 炭化物粒を少量化する。住居跡。                              |    | ⑦  | 10YR3/3 黑褐色           | 粘土 | 黒褐色粘土小ブロック・砂を含む。                               |
|   | 17 | 10YR3/4 増殖土  | 粘土 | 黒褐色粘土小ブロック・粒を多量に含む。住居跡堆積土。                   |    | ⑧  | 10YR3/2 増殖土           | 粘土 | 黒褐色粘土小ブロックを多量。炭化物粒を少量化する。                      |
| SX2569<br>窓穴<br>住居跡<br>(D')                 | 1  | 10YR3/4 増殖土  | 粘土 | 堆灰黒褐色粘土・炭化物粒を少量化する。住居堆積土。                    |    | ⑨  | 10YR3/2 1.5-<br>2 黑褐色 | 粘土 | 炭化物粒と後土粒を微量含む。黒褐色粘土を少量化する。                     |
|   | 2  | 10YR4/4 黄褐色  | 粘土 | に少し黄褐色粘土を微量含む。周囲堆積土。                         |    | ⑩  | 2.5YR3/3 黑褐色          | 粘土 | 堆灰黒褐色粘土を微量含む。                                  |
|   | 3  | 10YR4/1 黄褐色  | 粘土 | 粘土・炭化物粒を多量。後土・炭化物粒を少量化する。住居堆積土。              |    | ⑪  | 10YR3/1 増殖土           | 粘土 | 黒褐色粘土ブロック・粒をやや多く含む。炭化物粒を微量含む。                  |
| SX2569<br>SK1                               | 4  | 10YR3/1 黄褐色  | 粘土 | 粘土・炭化物粒と砂を微量。砂を少量化する。                        |    | ⑫  | 2.5YR3/1 増殖土          | 粘土 | 黒褐色粘土小ブロック・砂を少量化する。                            |
|   | 5  | 10YR4/4 黄褐色  | 粘土 | 炭化物粒と砂を微量含む。P1                               |    | ⑬  | 2.5YR3/1 黃褐色          | 粘土 | 黒褐色粘土小ブロックを多量。炭化物粒を少量化する。                      |
| SX2569<br>SK2                               | 6  | 10YR3/4 黄褐色  | 粘土 | 炭化物粒を多量。後土ブロックを少量化する。                        |    | ⑭  | 2.5YR3/3 黄褐色          | 粘土 | 堆灰黒褐色粘土を微量含む。                                  |
|   | 7  | 10YR3/4 増殖土  | 粘土 |  |    | ⑮  | 10YR4/4 增殖土           | 粘土 | 黒褐色粘土ブロックをやや多く含む。                              |
|   | 8  | 10YR3/4 増殖土  | 粘土 |  |    | ⑯  | 2.5YR4/2 黄褐色          | 粘土 | 黒褐色粘土シルト・砂を少量化する。                              |

ある。1～2層が住居内堆積土、3～15層がカマドおよび煙道の堆積土、16層が貼床、17層が堀方埋土である。遺構検出面から床面までの深さは約15cmであり、床面は暗灰黄色粘土質シルトの貼床が一部で確認されている。

新段階の床面で検出されたのはカマドと煙道、周溝、土坑3基、ピットである。カマドは住居の北壁に付設されており、カマドの西袖と煙道が残存している。カマドの西袖の規模は長さが66cm、幅が48cmである。煙道部の規模は長さ160cm以上、幅48cm、深さ20cmである。周溝は北壁の一部と東壁で検出された。周溝の規模は幅11～16cm、深さは6cmで断面形状はU字形である。土坑は3基検出された。このうちSK6は北西壁際で確認された土坑で、調査区外に広がっており、平面形は不整円形と考えられる。規模は長軸72cm以上、短軸34cm、深さは25cmで、断面形は皿状である。SK6からは土師器壺などの多くの遺物が出土しており、検出した位置から貯蔵穴と考えられる。ピットは4基検出されたが、検出位置から主柱穴と考えられるものは確認できなかった。

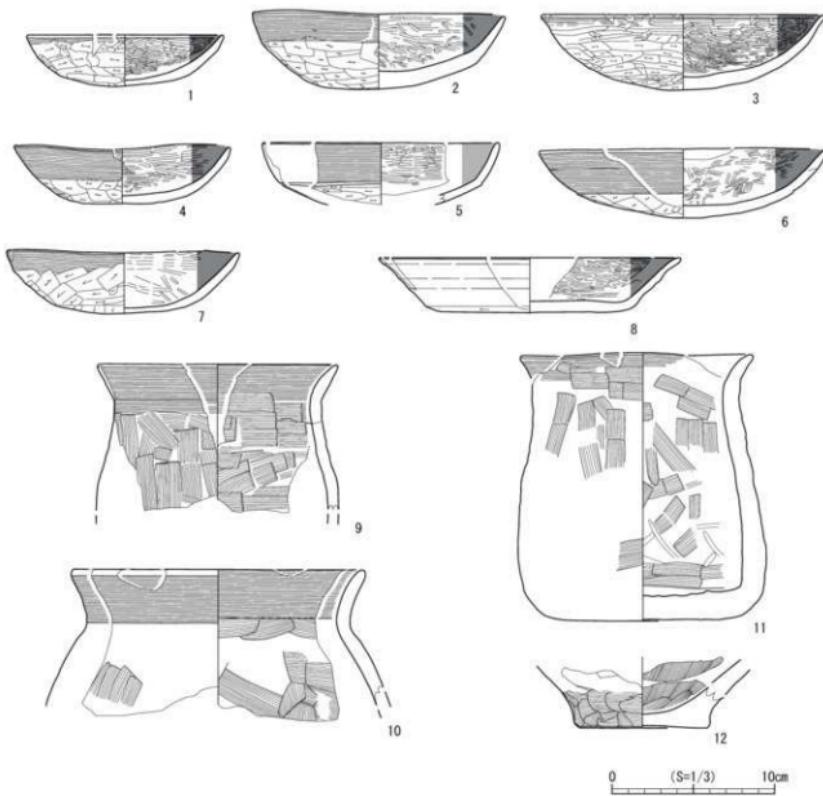
古段階で検出されたのは土坑3基と柱穴である。土坑は住居の東部で検出されている。SK3はSK5より古く、P3よりも新しい。平面形はほぼ円形で、規模は長軸114cm、短軸106cm、深さ16cm、断面形状は皿形で壁はほぼ垂直に立ち上がる。SK4は住居の南東部で検出し、南側の一部が調査区外に及ぶが、平面形は円形と考えられる。規模は長軸が86cm、短軸72cm、深さ17cm、断面形状は皿形で壁はほぼ垂直に立ち上がる。SK5はSK3とP3よりも新しい。平面形は不整円形で、規模は長軸146cm、短軸134cm、深さ21cm、断面形状は皿形で壁はほぼ垂直に立ち上がる。柱穴は5基検出されており、このうちP4とP7は柱の抜き取りが、P6では柱の切取りが行われている。P7では柱穴の底面で柱の圧痕が残っていた。規模はP6の堀方の長軸65cm以上、短軸48cm、深さ56cm、柱痕跡は径18cmである。P6の切取穴の長軸55cm、短軸44cm、深さ31cmである。P6とP7は検出位置から主柱穴と考えられる。

遺物は住居の堆積土や土坑から土師器や須恵器、土製品などが多く出土している。このうち土師器13点、ロク



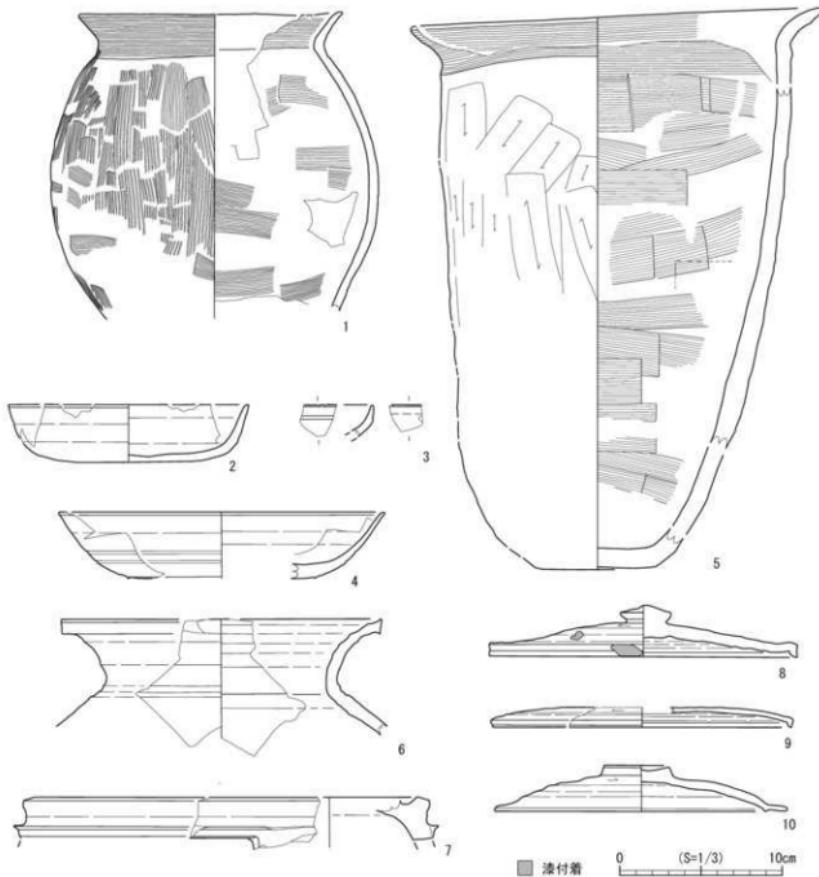
第6図 SI2569 穴住居跡（古段階）平面・断面図

I. 第308次調査



| 図版<br>番号 | 目録<br>番号 | 出土<br>遺構   | 層位   | 種別  | 基壇 | 測量 (cm) |      |       | 外観                     | 内観                             | 備考  | 写真<br>版面 |
|----------|----------|------------|------|-----|----|---------|------|-------|------------------------|--------------------------------|---|----------|
|          |          |            |      |     |    | 口径      | 底径   | 器高    |                        |                                |   |          |
| 1        | C-1331   | S12569-SK6 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | 12.0    | -    | 3.2   | 口:ヨコナギ→底へ延:ケズリ         | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英。白粉少量含む。焼成良 | 白色砂粒少々。石英。黑色研<br>磨粗粒。白粉少量含む。焼成良             | 3-1      |
| 2        | C-1330   | S12569-SK6 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | 15.4    | -    | 4.9   | 口:ヨコナギ→底へ延:ヘラケズリ       | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英。白粉少量含む。焼成良 | 石英や多量の褐色砂粒少々。黑<br>色研磨粗粒含む。白粉。焼成良            | 3-2      |
| 3        | C-1325   | S12569-SK6 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | (15.4)  | -    | 4.7   | 口:ヨコナギ→ケタ:体:ケズリ        | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英。白粉少量含む。焼成良 | 石英や多量の褐色砂粒少々。黑<br>色研磨粗粒含む。白粉。焼成良            | 3-3      |
| 4        | C-1333   | S12569-SK6 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | 13.2    | -    | 3.6   | 口:ヨコナギ→体へ延:ヘラケズリ       | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英。白粉少量含む。焼成良 | 白色砂粒少々。石英。白粉少量含<br>む。焼成良                    | 3-4      |
| 5        | C-1332   | S12569-SK3 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | (14.6)  | -    | (3.8) | ヨコナギ、ヘラケズリ             | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英。白粉含む。焼成良   | 白色砂粒少々。石英。白粉含む。燒<br>成良                      | 3-5      |
| 6        | C-1336   | S12569     | 前方理土 | 土師器 | 坪  | 17.7    | -    | 4.25  | 口:ヨコナギ→体へ延:ヘラケズリ       | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英含む。焼成良。輪槽無  | 白色砂粒少々。石英。白粉含<br>む。焼成良。輪槽無                  | 3-6      |
| 7        | C-1334   | S12569     | 前方理土 | 土師器 | 坪  | 14.3    | -    | 3.8   | 口:ヨコナギ→体へ延:ヘラケズリ       | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英。白粉含む。焼成良   | 白色砂粒少々。石英。白粉含<br>む。焼成良                      | 3-7      |
| 8        | D-116    | S12569     | 堆積土  | 土師器 | 坪  | (18.6)  | 11.0 | 3.4   | ロクロナギ→底:側面ヘラ切り         | ヘラミガタ→黒色処理<br>砂粒。石英。白粉少量含む。焼成良 | 白色砂粒少々。石英。白粉少量含<br>む。焼成良                    | 3-8      |
| 9        | C-1353   | S12569-SK2 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | 14.6    | -    | (9.1) | 口:ヨコナギ→体:ヘラナギ→指ナギ      | 口:ヨコナギ→体:ヘ<br>ラナギ→指ナギ          | 粘土。白色砂粒少々。石英や多量の<br>褐色砂粒少々。黑色研磨粗粒含む。燒<br>成良 | 3-9      |
| 10       | C-1354   | S12569-SK2 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | (17.8)  | -    | (8.3) | 口:ヨコナギ→体:ヘラナギ          | 口:ヨコナギ→体:ヘ<br>ラナギ              | 粘土。白色砂粒少々。石英や多量の<br>褐色砂粒少々。黑色研磨粗粒含む。燒<br>成良 | 3-10     |
| 11       | C-1359   | S12569     | 堆積土  | 土師器 | 坪  | 14.2    | 11.0 | 16.6  | 口:ヨコナギ→ヘラナギ→体:ヘラナ<br>ギ | 口:ヨコナギ→体:ヘ<br>ラナギ→指ナギ          | 粘土。砂粒。石英。白色小粒。白<br>粉含む。焼成良。本張痕              | 3-12     |
| 12       | C-1351   | S12569-SK6 | 堆積土  | 土師器 | 坪  | -       | 8.0  | (4.4) | 体:ヘラナギ→底:ナギ            | ヘラナギ                           | 粘土。白色砂粒少々。石英多量。<br>黑色研磨粗粒含む。燒成良             | 3-11     |

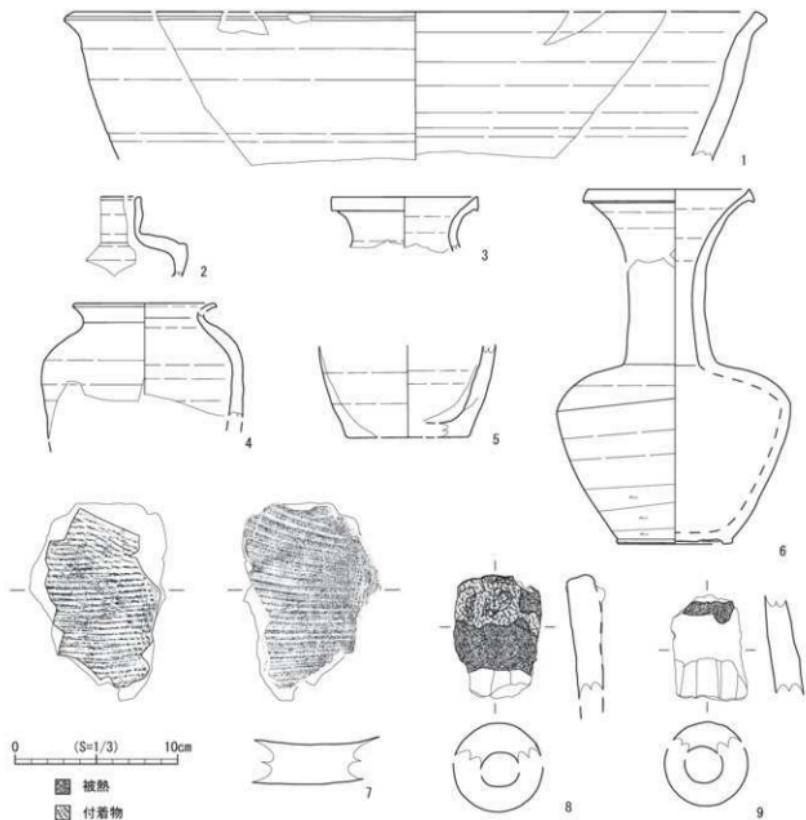
第7図 第308次調査 出土遺物 (1)



| 図版<br>番号 | 登録<br>番号 | 出土<br>場所       | 層位   | 種類  | 器種  | 遺量(cm) |      |        | 外蓋                             | 内蓋               | 備考                             | 写真<br>図版 |
|----------|----------|----------------|------|-----|-----|--------|------|--------|--------------------------------|------------------|--------------------------------|----------|
|          |          |                |      |     |     | 口径     | 底径   | 高さ     |                                |                  |                                |          |
| 1        | C-1361   | S12569-<br>ガマゾ | 土頭跡  | 甕   | 口付  | 16.2   | -    | (14.4) | ロクロナヂ 体:ハケメヘー露ヘラ<br>ナヂ         | ロクロナヂ 体:ハ<br>クナヂ | 砂粒・石英・ミリ粒の白い<br>小石・白粉少含む 施成員   | 3-13     |
| 2        | E-661    | S12569         | 堆積土  | 甕   | 口付  | (14.4) | 11.2 | 3.6    | ロクロナヂ 底:凹輪ヘラケズリ                | ロクロナヂ            | 砂粒・石英・1~3ミリの<br>白色粒多含む 施成員     | 4-1      |
| 3        | E-655    | S12569         | 飯方埋土 | 甕   | 口付? | -      | -    | (3.5)  | ロクロナヂ                          | ロクロナヂ            | 砂粒・白粉・白色板 磨成                   | 4-2      |
| 4        | E-672    | 遺構検出           | 堆積土  | 甕   | 口付  | (30.2) | -    | (4.1)  | ロクロナヂ                          | ロクロナヂ            | 砂粒・石英・白色板含む 磨成員                | 4-3      |
| 5        | C-1365   | S12569         | 堆積土  | 土頭跡 | 甕   | 25.1   | 7.4  | 30.4   | ロクロナヂ 体:上ケズリ。下摩耗<br>している 頚:ヘラ切 | ロクロナヂ 体:ハ<br>クナヂ | 砂粒・石英・多量の0.5~<br>3ミリの白色粒 磨成員   | 3-14     |
| 6        | E-463    | S12569         | 堆積土  | 甕   | 口付  | (39.7) | -    | (7.9)  | ロクロナヂ 体:平行タタキ<br>平行タタキのちハラ     | ロクロナヂ            | 砂粒・石英・白粉・白色板 0.5<br>~1.5ミリ 磨成員 | 4-4      |
| 7        | E-660    | 遺構検出           | 堆積土  | 円面鏡 | 口付  | 25.0   | -    | (3.0)  | ロクロナヂ                          | ロクロナヂ            | 砂粒・石英・白色板 磨成員                  | 4-5      |
| 8        | E-662    | S12569-<br>906 | 堆積土  | 甕   | 口付  | 39.0   | -    | 3.1    | ロクロナヂ-凹輪ヘラケズリ                  | ロクロナヂ            | 砂粒・石英・白色板含む 施成員                | 4-6      |
| 9        | E-657    | S12569-<br>P2  | 床床   | 甕   | 口付  | 23.0   | -    | (1.9)  | ロクロナヂ-凹輪ヘラケズリ                  | ロクロナヂ            | 砂粒・石英・白色板含む 施成員                | 4-6      |
| 10       | E-454    | S12569         | 堆積土  | 甕   | 口付  | 18.1   | -    | 2.8    | つまみ部:ロクロナヂ 体:ロクロナ<br>ヂ-凹輪ヘラケズリ | ロクロナヂ            | 砂粒・石英・白色板 磨成員                  | 4-7      |

第8図 第308次調査 出土遺物（2）

I. 第308次調査



| 図版<br>番号 | 登録<br>番号 | 出土<br>遺構      | 層位   | 種別  | 基準         | 流量(cm) |       |         | 外蓋                                 | 内蓋               | 備考                              | 写真<br>図版 |
|----------|----------|---------------|------|-----|------------|--------|-------|---------|------------------------------------|------------------|---------------------------------|----------|
|          |          |               |      |     |            | 口径     | 底径    | 高さ      |                                    |                  |                                 |          |
| 1        | E-656    | S12569        | 繩文土器 | 單底器 | 壁厚         | (43.4) | —     | (9.1)   | ロクロナゲ                              | ロクロナゲ            | 粘土・砂粒・石英・極小白色砂粒<br>少數・焼成度       | 4-9      |
| 2        | E-673    | S12569        | 繩文土器 | 單底器 | 細網目        | (7.2)  | —     | (4.9)   | ロクロナゲ                              | ロクロナゲ            | 粘土・砂粒・石英・白色粒・黑色<br>斑状           | 4-10     |
| 3        | E-677    | S12569        | 繩文土器 | 單底器 | 蓋          | (9.0)  | —     | (3.1)   | ロクロナゲ                              | ロクロナゲ            | 粘土・砂粒・石英・白色粒0.5~2.0<br>「五重ね」焼成度 | 4-11     |
| 4        | E-665    | S12569        | 繩文土器 | 單底器 | 蓋          | 8.8    | —     | (5.7)   | ロクロナゲ                              | ロクロナゲ            | 粘土・砂粒・石英・白色粒・燒成<br>度・無網         | 4-12     |
| 5        | E-675    | S12569<br>SK4 | 繩文土器 | 單底器 | 蓋?         | —      | —     | (5.7)   | ロクロナゲ                              | ロクロナゲ            | 粘土・砂粒・石英・白色粒・燒成<br>度・輪網目        | 4-13     |
| 6        | E-661    | S12569        | 繩文土器 | 單底器 | 直筒付<br>長筒造 | 30.0   | 7.2   | 21.9    | ロクロナゲ→斜面→タケヌリ                      | ロクロナゲ            | 粘土・砂粒・石英・白色小粒・直<br>筒付・燒成度       | 4-14     |
| 等のもの     | E-678    | 遺構地盤          | 單底器  | 平底? | (3.7)      | —      | —     | —       | ロクロナゲ                              | ロクロナゲ            | 粘土繩目 東南複合                       | 4-19     |
| 図版<br>番号 | 登録<br>番号 | 出土<br>遺構      | 層位   | 種別  | 基準         | 流量(cm) |       |         | 備考                                 |                  |                                 |          |
|          |          |               |      |     |            | 高さ     | 幅     | 厚さ      |                                    |                  |                                 |          |
| 7        | G-181    | S12569<br>SK4 | 繩文土器 | 瓦   | 平瓦         | (12.1) | (8.2) | 2.6     | 凸面 平行タタキ→ナゲ 回面 直目板→系切瓶→ナゲ          | 粘土・砂粒・石英・白色粒・燒成度 | 4-15                            |          |
| 等のもの     | K-416    | —             | 石製品  | 小玉石 | 1.7        | 1.2    | 0.6   | 1.6g 黒色 | —                                  | —                | —                               | 4-16     |
| 等のもの     | K-417    | S12569        | 繩文土器 | 石製品 | 小玉石        | 1.3    | 1.2   | 0.6     | 1.2g 黑色                            | —                | —                               | 4-17     |
| 等のもの     | K-418    | S12569        | 繩文土器 | 石製品 | 小玉石        | 1.2    | 0.9   | 0.5     | 0.7g 白色                            | —                | —                               | 4-18     |
| 8        | P-80     | S12569<br>P7  | 繩文土器 | 土製品 | 別口         | (7.1)  | (5.2) | 1.9     | 角ナゲ 粘土・砂粒・石英・白色小粒・溶解物付着・被熱         | —                | —                               | 4-20     |
| 9        | P-81     | S12569        | 繩文土器 | 土製品 | 別口         | (2.5)  | (4.4) | 1.5     | 角ナゲ 粘土・砂粒・石英・白色小粒・0~3ミリ程度の小石ごく少量含む | —                | —                               | 4-21     |

第9図 第308次調査 出土遺物(3)

ロ土師器1点、須恵器14点、瓦1点、土製品2点を図示した。図示した遺物のほかに、須恵器1点と石製品3点を写真図版に掲載した。ロクロ土師器壺（第7図8）は新段階の床面直上で出土しており、住居跡に伴う可能性が高い。新段階の住居の貯蔵穴（SK6）から出土した土師器壺（第7図1・3・4）は体部から底部が半球形を呈しており、内面は黒色処理されている。このうち3は口縁部にミガキが施されている。古段階の住居の土坑（SK3）から出土した壺（第7図5）と堀方埋土から出土した壺（第7図6）は口縁部と体部の境にわずかに段を有している。第7図11の土師器小型甕はほぼ完形で出土した。体部から底部に向かって膨らむ形状を呈しており、このような下膨みの形状を有する甕は第35次調査のSE429 井戸跡からも出土している（C-322、C-348）。新段階の住居の貯蔵穴（SK6）から出土した須恵器蓋（第8図8）は宝珠形のツマミが付き内面にカエリがない。第8図10の須恵器蓋はボタン状のツマミで端部にカエリがある。外面の端部周縁は黒色化しており、焼成の際に重ね焼きをした痕跡であると考えられる。第9図5は壺の底部の可能性があり、第16次調査で出土した特殊な壺（E-88）と形態が類似している。第9図6の須恵器長頸壺は口縁部の一部が欠けているがほぼ完形で出土した。この長頸壺と体部の形態が同じものが第35次調査のSE429 井戸跡から出土している（E-180）。写真図版に掲載した須恵器（E-678）は小破片であるが、平瓶の頸部の破片の可能性があり、胎土の特徴から東海産と考えられる。また図化はしなかつたが、この住居からは拳大から人頭大の被熱した川原石が出土している。

#### 【SX2570 性格不明遺構】（第6図）

調査区のはぼ全域で検出され、調査区外に延びる。SI2569 壁穴住居跡とP1と重複しており、これらより古い。規模については全体の形が検出されていないが、底面から北東-南西方向の溝状の遺構である可能性がある。南西壁の断面から上端幅は445cm以上、下端幅は130～155cm、深さは55cmである。断面形状は皿状で壁は緩やかに立ち上がり、底面には凹凸が見られる。堆積土は黒褐色～褐色の粘土を主体としており、基本層IV層を起源とする黄褐色粘土ブロックや粘土粒が多く含まれている層もある。遺物は土師器の小破片が少量出土した。

#### 【ピット】（第5図）

調査区の北部で1基検出された。SX2570よりも新しい。平面形状は円形で、規模は径30cm、深さは57cmである。柱痕跡を有していない。

#### 4.まとめ

今回の調査地点は郡山遺跡の北部に位置し、北側ではII期官衙の外郭施設が確認されている。今回の調査では壁穴住居跡1軒と性格不明遺構1基、ピット1基が検出された。遺構の重複関係はSX2570 性格不明遺構→SI2569 壁穴住居跡である。SI2569 壁穴住居跡は床面の作り直しが行われ、2時期あったことが確認された。新段階の住居とその施設から出土した遺物は、土師器壺や須恵器の特徴から7世紀後半～8世紀前半のものでII期官衙の時期の住居跡と考えられる。今回の調査地点の北側にある第19次調査、東側にある第245次調査、西側にある第268次でも壁穴住居跡が検出されている。第19次調査と第268次ではI期官衙の時期の壁穴住居跡が、第245次調査ではII期官衙の時期の壁穴住居跡が検出されている。また、SX2570 性格不明遺構は、堆積土の特徴から、壁穴住居跡を造るために湿地化した場所を埋め戻した跡と推定できる。第245次調査でも河川跡→SX2338 性格不明遺構→SI2334 壁穴住居跡と遺構の変遷が確認されている。II期官衙北辺部の壁穴住居跡やその土地利用の様相を解明するため、今後も周辺の調査を進めていく必要がある。

1. 第308次調査



1. 西半部 SI2569 新段階貼床検出状況（北西から）



2. 西半部 SI2569 古段階検出状況（北西から）



3. 西半部 SI2569 完掘・SX2570 検出状況(東から)



4. 西半部 SI2569 竪穴住居跡遺物出土状況（北から）



5. 西半部 SI2569 竪穴住居跡遺物出土状況(北東から)

写真図版1 郡山遺跡第308次調査（1）



1. 西半部 調査終了状況（南東から）



2. 西半部 南西壁断面（北東から）



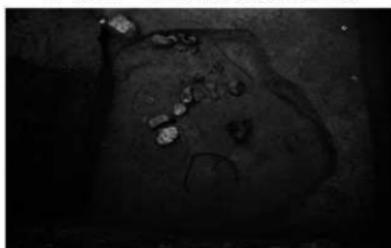
3. 西半部 北西壁断面（南東から）



4. 東半部 SI2569 検出状況（南東から）



5. 東半部 SI2569 カマド検出状況（南から）



6. 東半部 SI2569 竪穴住居跡床面遺物出土状況（南東から）



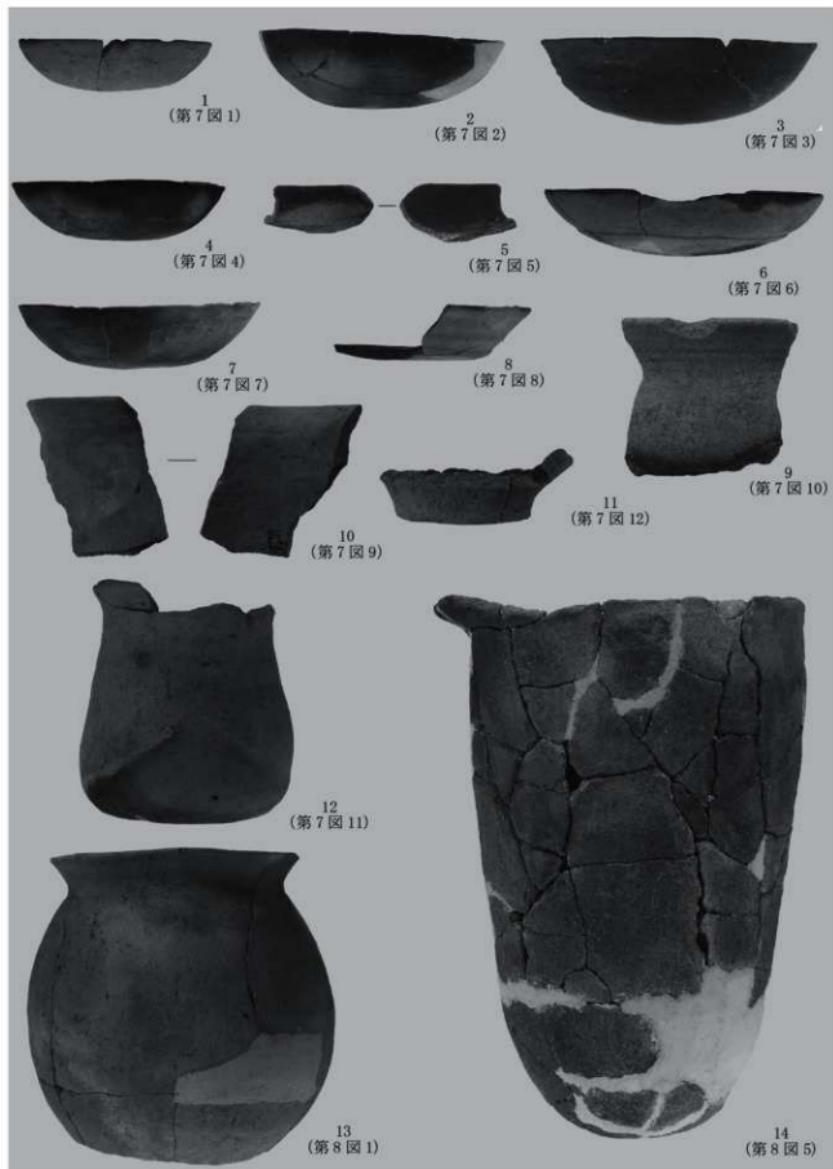
7. 東半部 SX2570 性格不明遺構断面（南東から）



8. 東半部 調査終了状況（南東から）

写真図版2 郡山遺跡第308次調査（2）

I. 第308次調査



写真図版3 郡山遺跡第308次調査出土遺物(1)



写真図版 4 郡山遺跡第 308 次調査出土遺物（2）

## II. 第309・311次発掘調査

### 1. 調査経過と調査方法

第309次調査は個人住宅建築工事に伴い、令和3年2月8日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和3年2月12日付R2教生文第101-419号で通知)、第311次調査は個人住宅建築工事に伴い、令和3年5月7日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和3年5月10日付R3教生文第108-52号で通知)に基づき発掘調査を実施した。

第309次調査は令和3年2月24日に着手し、建築予定範囲内に東西4.0m×南北3.0mの規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層Ⅰ～Ⅳ層を除去し、V層上面(GL-1.1m)で遺構検出作業を行った所、溝跡1条を検出した。第311次調査は令和3年5月24日に着手し、建築予定範囲内に東西4.0m×南北3.0mの規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層Ⅱ層まで除去し、Ⅲ層上面(GL-0.8m)で遺構検出作業を行った所、溝跡1条を検出した。その後、人力により南半部をⅣ層上面まで掘り下げ遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。調査では必要に応じて平面・断面図(S=1/20)を作製し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また、調査の際に郡山座標(No.34)から基準点・水準点の移設を行った。

### 2. 基本層序

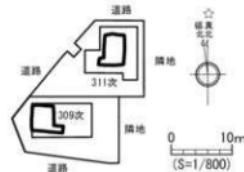
盛土(層厚約50～55cm)の下に基本層を大別で6層確認した。両調査区での層序は共通しているが、Ⅳ層については第311次調査では2層に細分している。

### 3. 検出遺構と出土遺物

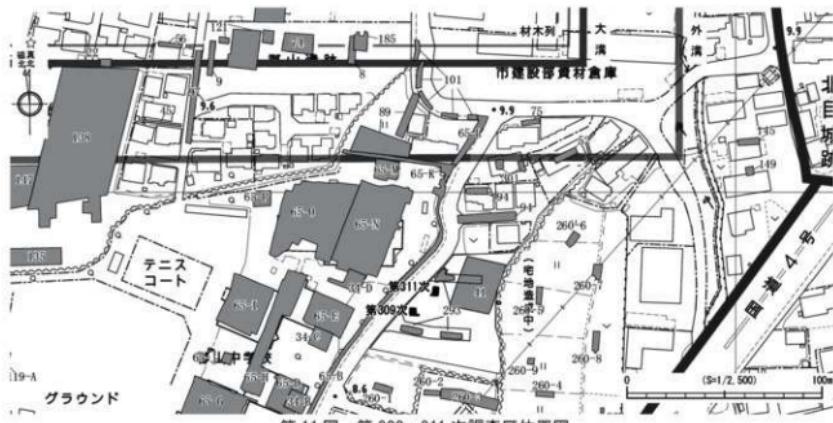
第309次調査で溝跡1条、第311次調査で溝跡1条をそれぞれ検出した。遺物は出土していない。

#### 【SD2573溝跡】(第12図)

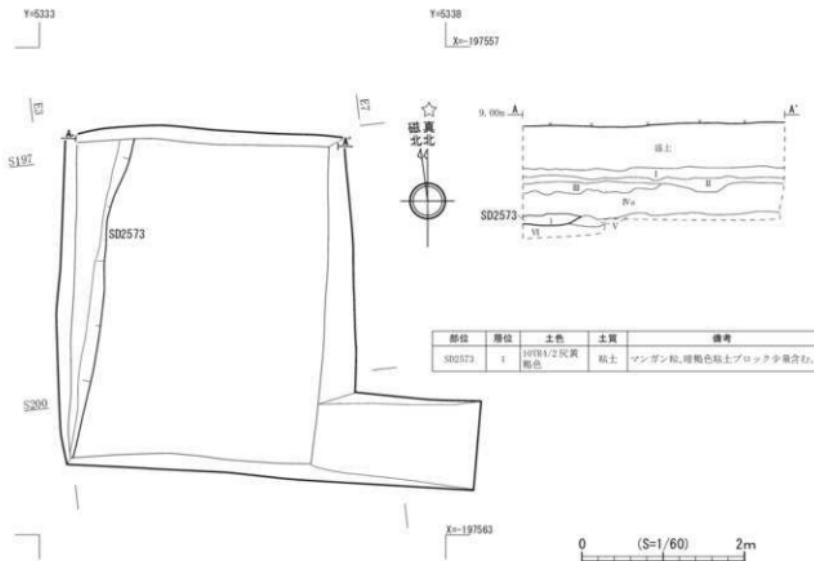
第309次調査区で東辺のみ検出した。方向はN-11°-Eに延びる溝跡で両端は調査区外へ延びている。検出長は3.94m、検出した上端幅は72cm以上、下端幅は50cm以上、深さは14cmである。断面形は皿型を呈し、堆積土は単層で暗褐色粘土小ブロックを少量含む褐色粘土層である。遺物は出土していない。



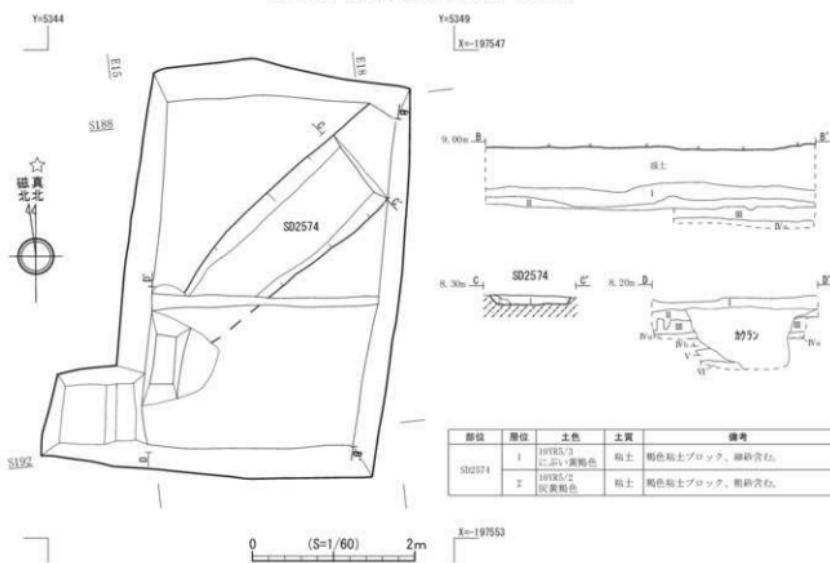
第10図 第309・311次調査区配置図



第11図 第309・311次調査区位置図



第12図 第309次調査区平面・断面図



第13図 第311次調査区平面・断面図

第309・311次調査区基本層土層記表

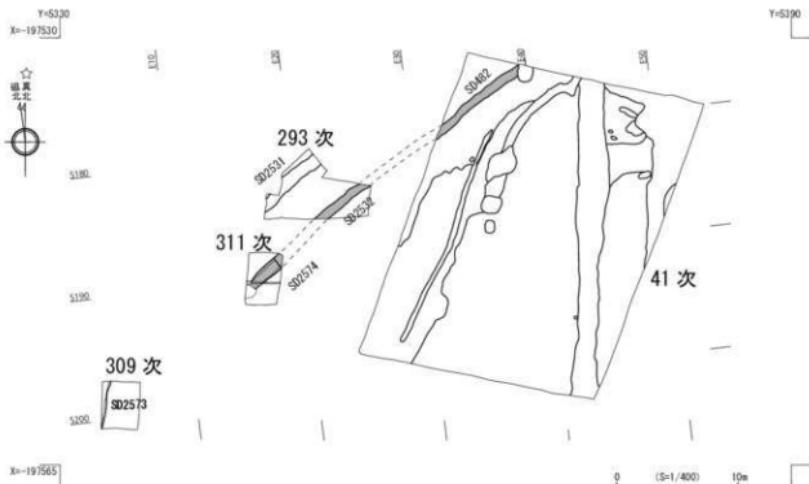
| 部位  | 層位   | 土色             | 土質 | 備考   |
|-----|------|----------------|----|--|
| 基本層 | I    | 103E5/1 棕灰色    | 粘土 | 鉱化鉄をや多く含む。造成前の水田耕作土であると考えられる。層厚 10 ~ 15 cm。      |
|     | II   | 103E5/2 暗灰褐色   | 粘土 | 鉱化物を少量含む。鉱化鉄を多く含む。耕の跡作土と想えられる。層厚 5 ~ 16 cm。      |
|     | III  | 103E5/6 明黄褐色   | 粘土 | マンガン鉱を少量含む。黒褐色粘土ブロックを含む。層厚 0 ~ 15 cm。311次の遺構検出面。 |
|     | IV a | 103E5/4 にじる紫褐色 | 粘土 | 黒褐色粘土ブロック。砂、マンガン鉱を含む。層厚 5 ~ 35 cm。               |
|     | IV b | 103E5/6 明黄褐色   | 粘土 | マンガン鉱を含む。黄褐色粘土ブロックを少量含む。層厚 0 ~ 20 cm。            |
|     | V    | 103E5/6 黄褐色    | 粘土 | マンガン鉱を微量に含む。309次の遺構検出面。層厚 15 cm。                 |
|     | VI   | 2. 311/2 暗灰褐色  | 粘土 | 黒褐色粘土が互層状に堆積。                                    |

## 【SD2574 溝跡】(第13図)

第311次調査区で検出された。方向は E-39° -N に延びる溝跡で、南端は擾乱により削平される。検出長 3.3m、上端幅 110cm、下端幅 70cm、深さは 15cm の規模である。断面形は皿型状を呈し、堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

## 3.まとめ

調査地点は遺跡の南東部に位置する。調査では第309次調査で溝跡 1 条、第311次調査で溝跡 1 条が検出された。第311次調査で検出された SD2574 溝跡は、その方向と規模から第41次 SD482、第293次 SD2532 溝跡と同一の遺構と考えられ、総延長は 28m 以上に及ぶ(第14図)。これら同一の遺構についてはこれまで遺物が出土していないことから、詳細な時期については分かっていない。第293次調査では灰白色火山灰の堆積が認められる SD2531 溝跡と SD2532 溝跡が平行することから、一連の遺構である可能性が指摘されているが、これら遺構の詳細については周辺での調査の蓄積が待たれる。また、第309次調査で検出した SD2573 溝跡は SD2574 溝跡の延長線上に位置するが、遺構検出面や方向が異なることから別遺構と考えられる。なお、第293次調査で整地層の可能性が指摘された II a、II b 層は本調査における III 層、IV 層がそれぞれ対応すると考えられる。



第14図 第309・311次調査区と周辺での検出遺構



1. 第309次 調査区完掘全景（北から）



2. 第309次 北壁壁面（南から）



3. 第311次 調査区完掘全景（南西から）



4. 第311次 SD2574 土層断面（南西から）



5. 第311次 南壁壁面（北から）

写真図版5 郡山遺跡第309・311次調査

### III. 第310次調査

#### III. 第310次発掘調査

##### 1. 調査経過と調査方法

個人住宅建築工事に伴い、令和3年1月22日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和3年1月25日付R2教生文第101-402号で通知)に基づき発掘調査を実施した。

発掘調査は令和3年3月9日に着手した。建築予定範囲内に調査区を南北3.0m、東西5.5m(1区)、南北3.0m、東西4.0m(2区)の2箇所設定し、重機により盛土および基本層I層を除去後、II層上面(GL-1.8m)で遺構確認作業を行ったが遺構は検出されなかった。

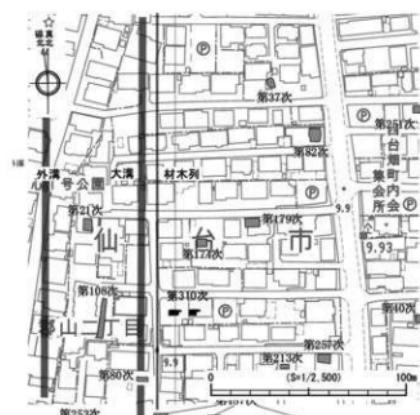
調査では必要に応じて平面図(S=1/40)、断面図(S=1/20)を作製し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。

##### 2. 基本層

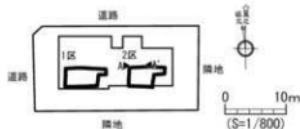
盛土(層厚約1.8m)の下に基本層を大別で2層確認した。

##### 3.まとめ

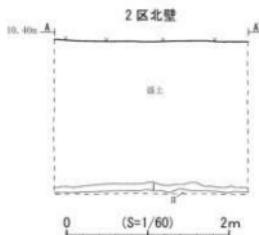
調査地点は遺跡の西部に位置する。調査区の北方約60mに位置する、第174・179次調査では、現代の水田耕作土の直下で郡山遺跡における古代の遺構検出面より下層で認められる粘土層が検出されており、過去の土取りにより遺構面が削平されていた。また、西方約50mの第108次、南東約80mの第213次と第257次調査でも古代の遺構検出面が削平されており、今回の調査区でも、遺構確認作業を行ったII層上面の標高が周辺調査と比較して低いことから、本調査区周辺においても古代の遺構検出面が削平されている可能性がある。



第16図 第310次調査区位置図



第15図 第310次調査区配置図



| 部位  | 層位 | 土色           | 土質          | 備考           |
|-----|----|--------------|-------------|--------------|
| 基本層 | I  | 2.5M3/1 黒褐色  | 粘土<br>泥水耕作土 | 酸化物・炭化物を含む。  |
|     | II | 2.5M3/2 灰灰黄色 | 粘土          | 酸化物・砂を多量に含む。 |

第16図 310次調査 2区北壁断面図



1. 1区調査状況（東から）



2. 2区調査状況（南から）

写真図版6 郡山遺跡第310次調査

#### IV. 第312次発掘調査

##### 1. 調査経過と調査方法

個人住宅建築工事に伴い、令和3年5月17日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和3年5月20日付R3教生文第108-61号で通知)に基づき発掘調査を実施した。

発掘調査は令和3年7月26日に着手し、建築予定範囲内に18m<sup>2</sup>の規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層Ⅰ～Ⅱ層を除去し、Ⅲ層上面(GL-0.6～0.7m)で遺構検出作業を行った。

調査では必要に応じて平面・断面図(S=1/20)を作製し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。

##### 2. 基本層序

基本層を大別で5層確認した。遺構検出作業はⅢ層上面で行ったが、実際の遺構検出面はⅡ層上面である。

##### 3. 検出遺構と出土遺物

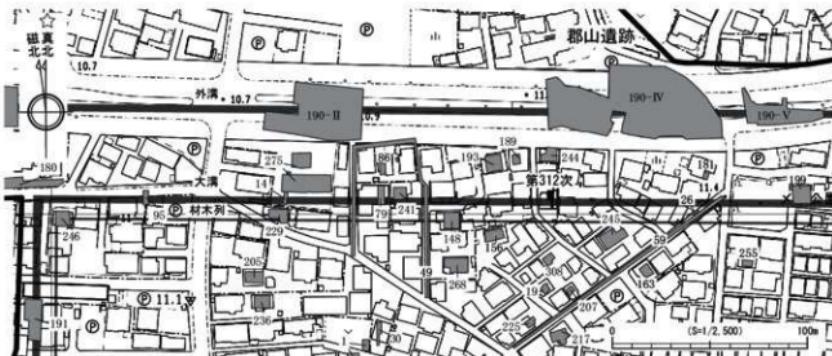
溝跡3条とピット8基を検出した。遺物は土師器、須恵器が出土した。

##### 【SD2575A・B溝跡】(第20～23回)

方位E-1°～-S方向に延びる、東西方向の溝跡である。検出長は3.1mで、その両端は調査区外へと延びる。堆積状況から新旧2時期が確認される。SD2575A(新期)は上端幅193～226cm、下端幅19～31cmで、深さは114～145cmで西部がより深く掘り込まれている。断面形状はV字に近い形状を呈し、堆積土は西壁で10層、東壁で9層確認した。堆積土は下部で水性堆積が認められるが、上部はいずれも基本層Ⅱ層由来の地山ブロックを含んでおり、人為的に埋め戻された可能性が高い。SD2575B(旧期)は上幅293～311cmで、北側の下端は新期の掘り返しにより削平されている。また、深さ81cm以上で断面形状は逆台形状を呈すると考えられる。堆積土は西壁で2層、東壁で5層確認した。いずれも自然堆積層である。遺物は土師器が106点、須恵器が12点、平瓦2点が出土した。このうち土師器の壺、高壺、甕、須恵器の蓋を図示した(第22図)。

##### 【SD2576溝跡】(第20～21回)

方位N-26°～-S方向の溝跡で検出長1.9m、上幅41cm、下幅34cm、深さ10cmの規模を持つ。遺物は土師器片が1点出土した。

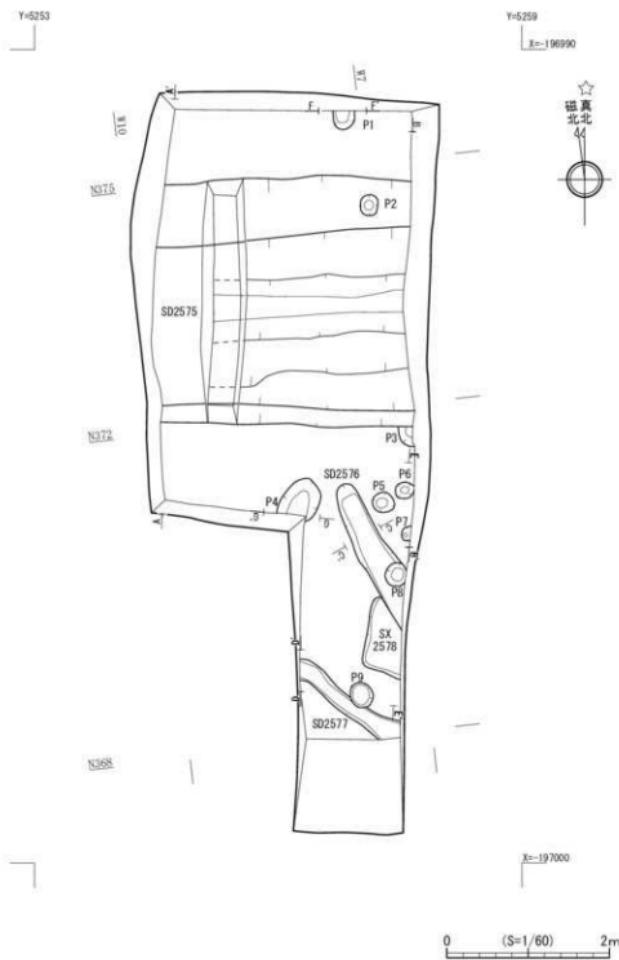


第18図 第312次調査区配置図



第19図 第312次調査区位置図

IV. 第312次調査



第20図 第312次調査区平面図

【SD2577溝跡】(第20～21図)

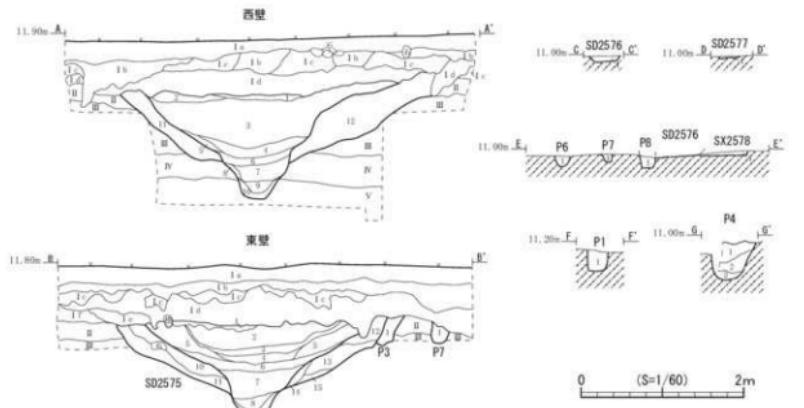
方位E-38°-N方向の溝跡で検出長1.5m、上幅22cm、下幅18cm、深さ6cmの規模を持つ。遺物は出土していない。

【SX2578性格不明遺構】(第20～21図)

調査区南部で検出され、東側は調査区外へと続く。SD2576溝跡よりも古い。南北長89cm、東西長48cm以上の規模を持ち、深さは4～8cmである。遺物は出土していない。

【ピット】(第20～21図)

9基検出した。規模は直径20～50cm、深さ20～45cmである。いずれも柱痕跡は確認されず、建物の配置は認



| 部位  | 層位  | 土色              | 土質    | 備考                      | 部位     | 層位                      | 土色              | 土質                           | 備考                   |  |
|-----|-----|-----------------|-------|-------------------------|--------|-------------------------|-----------------|------------------------------|----------------------|--|
| 基本層 | I a | H0YB6/1 にない 黄褐色 | シルト   | 塊状土。                    | 1      | H0TB3/4 黄褐色             | 粘土              | 灰白色火成岩 (二次堆積) 少量含む。東壁 1層に対応。 |                      |  |
|     | I b | H0YB6/3 塗褐色     | シルト   | 前黃褐色シルトブロックを斑状に含む。田耕作土。 | 2      | H0TB4/4 黄褐色             | 粘土              | 注釈同上                         |                      |  |
|     | I c | H0YB6/6 明黄褐色    | シルト   | 暗褐色シルトブロック含む。           | 3      | H0TB4/4 黄褐色             | 粘土              | 灰白色火成岩 (二次堆積) 少量含む。東壁 2層に対応。 |                      |  |
|     | I d | H0YB6/3 塗褐色     | シルト   | 紅褐色シルトブロックを斑状に含む。       | 4      | H0TB6/6 黄褐色             | 粘土              | 灰黃褐色シルトブロック含む。東壁 6層に対応。      |                      |  |
|     | I e | H0YB6/4 にない 黄褐色 | 粘質シルト | 暗褐色シルトブロック少量含む。         | 5      | H0TB4/4 黄褐色             | 粘土              | 明黃褐色シルトブロック含む。               |                      |  |
|     | I f | H0YB6/3 塗褐色     | 粘質シルト | 暗褐色シルトブロックを斑状に含む。       | 6      | H0TB5/4, 5, 6 黄褐色       | 粘土              | 灰黃褐色粘土と互層付。東壁 7層に対応。         |                      |  |
|     | II  | H0YB6/1 にない 黄褐色 | 粘質シルト | 暗褐色シルト土を含む。             | 7      | H0TB5/4, 12, 13, 14 黄褐色 | 粘土              | 灰黃褐色粘土と互層付。東壁 7層に対応。         |                      |  |
|     | III | H0YB6/6 明黄褐色    | 粘土    | はげ切面。                   | 8      | H0TB6/6 明黄褐色            | 粘土              | 注釈同上。                        |                      |  |
|     | IV  | H0YB6/0 黄褐色     | 粘土    | 礫含む。                    | 9      | H0TB6/1, 11, 15 黄褐色     | 粘土              | 砂礫を多量に含む。灰化土を含む。東壁 8層に対応。    |                      |  |
|     | V   | H0YB6/4 にない 黄褐色 | 粘土    | 礫砂・粗砂多量に含む。             | 10     | H0TB6/1 にない 黄褐色         | 粘土              | 礫砂を多量に含む。東壁 9層に対応。           |                      |  |
|     | 1   | H0TB6/2 塗褐色     | 粘土    | 灰白色火成岩 (二次堆積) 少量含む。     | 11     | H0TB4/4 黄褐色             | 粘土              | 明黃褐色シルト含む。東壁 12層に対応。         |                      |  |
|     | 2   | H0TB6/4 黄褐色     | 粘土    | 灰白色火成岩 (二次堆積) 少量含む。     | 12     | H0TB5/4 にない 黄褐色         | 粘土              | 明黃褐色シルト含む。東壁 13層に対応。         |                      |  |
|     | 3   | H0TB6/4 黄褐色     | 粘土    | 明黃褐色、灰黃褐色シルトブロック含む。     | SD2576 | 1                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 灰黃褐色粘土と互層付。SD2576    |  |
|     | 4   | H0TB6/4 塗褐色     | 粘土    | 明黃褐色粘土シルトブロック含む。        | SD2577 | 1                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 灰黃褐色粘土シルトブロック少量含む。   |  |
|     | 5   | H0TB6/4 黄褐色     | 粘土    | 明黃褐色粘土シルトブロック含む。        | SD2578 | 1                       | H0TB6/6 黄褐色     | 粘土                           | 明黃褐色シルトブロック含む。       |  |
|     | 6   | H0TB6/6 黄褐色     | 粘土    | 明黃褐色シルトブロック含む。          | P1     | 1                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 明黃褐色、灰黃褐色シルトブロック含む。  |  |
|     | 7   | H0TB6/4 にない 黄褐色 | 粘土    | 灰黃褐色粘土と互層付。             | P4     | 1                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 灰化土含む。灰化土ブロック含む。     |  |
|     | 8   | H0TB6/1 にない 黄褐色 | 粘土    | 礫砂多量に含む。灰化土を含む。         | P6     | 2                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 礫層ブロックを含む。           |  |
|     | 9   | H0TB6/4 にない 黄褐色 | 粘土    | 礫砂多量に含む。                | P7     | 1                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 礫層ブロックを含む。           |  |
|     | 10  | H0TB6/4 にない 黄褐色 | 粘土    | 明黃褐色シルトブロック含む。          | P8     | 1                       | H0TB4/4 にない 黄褐色 | 粘土                           | 明黃褐色、灰黃褐色シルトブロック含む。  |  |
|     | 11  | H0TB6/4 にない 黄褐色 | 粘土    | 明黃褐色シルトブロック含む。          | P9     | 1                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 明黃褐色シルト下部に堆積。灰化土を含む。 |  |
|     | 12  | H0TB6/4 黄褐色     | 粘土    | 明黃褐色シルトブロック少量含む。        | P10    | 1                       | H0TB4/4 黄褐色     | 粘土                           | 明黃褐色、灰黃褐色シルトブロック含む。  |  |
|     | 13  | H0TB6/4 黄褐色     | 粘土    | 明黃褐色シルト含む。              |        |                         |                 |                              |                      |  |
|     | 14  | H0TB6/2 にない 黄褐色 | 粘土    | 明黃褐色シルト含む。              |        |                         |                 |                              |                      |  |
|     | 15  | H0TB6/6 明黄褐色    | 粘土    | 明黃褐色土を含む。               |        |                         |                 |                              |                      |  |

第21図 第312次調査区断面図

められない。遺物は土師器片が4点の他、P4からは骨片が出土した。

#### 【遺構外出土遺物】(第22図)

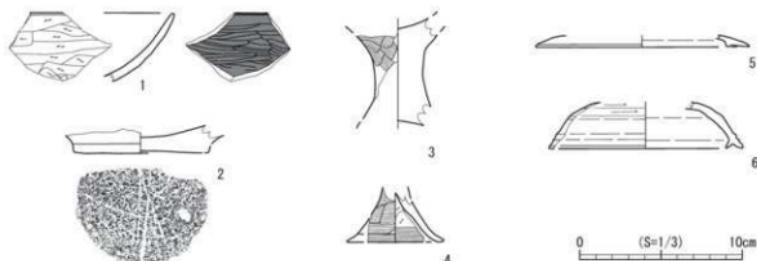
III層中から土師器19点が出土しており、このうち土師器の高坏脚部を図示した(第22図3)。

#### 4.まとめ

調査地点は方四町II期官衙の北部に位置し、北辺大溝の推定ライン上に位置する。調査の結果、東西方向の溝跡(SD2575)が検出され、その規模から北辺大溝と推定される。

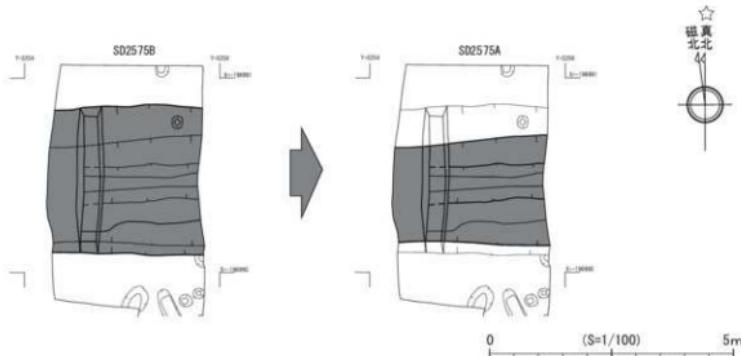
方四町II期官衙の北辺大溝についてはこれまで第49次(SD617)・79次(SD617A)・95次(SD617)・241次(SD617A)・199次(SD2155)で検出されている(第24図)が、いずれも部分的な検出であり、規模や形状について詳細は不

IV. 第312次調査



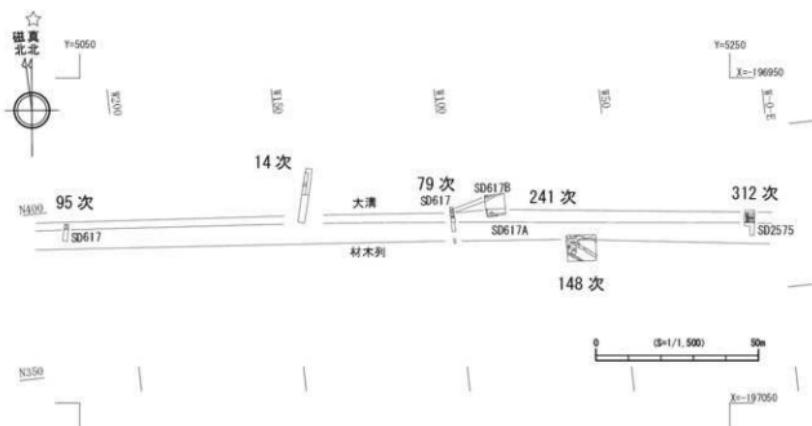
| 測面番号 | 遺物番号   | 出土遺構    | 部位  | 種別  | 基準 | 法量(cm) |       |        | 外観              | 内観         | 備考               | 写真番號 |
|------|--------|---------|-----|-----|----|--------|-------|--------|-----------------|------------|------------------|------|
|      |        |         |     |     |    | 口径     | 底径    | 厚さ     |                 |            |                  |      |
| 1    | C-1266 | SD2575B | 堆積土 | 土師器 | 2F | -      | -     | (4.23) | 口:体へラケズリ        | ハラミガタ→黑色地理 | 粘土・砂粒・石英・白色粘・白鈍少 | B-1  |
| 2    | C-1268 | SD2575B | 堆積土 | 土師器 | 裏  | -      | 8.4   | (1.7)  | 体ニナデ 裏:木葉版。縦縞あり | 泥:ケズリ      | 砂粒・石英・白色粘・白鈍少    | B-4  |
| 3    | C-1267 | 瓦       | 裏   | 土師器 | 高所 | -      | (6.0) | 2.4    | ヨコナデ、ヘラナデ       | ケズリ。ヨコナデ   | 粘土・砂粒・石英・白色粘・地成  | B-2  |
| 4    | C-1269 | SD2575B | 堆積土 | 土師器 | 高所 | -      | -     | (6.9)  | ヘラナデ、摩耗痕有       | 摩耗痕有       | 粘土・砂粒・石英・白小粒・白   | B-3  |
| 5    | E-480  | SD2575B | 堆積土 | 須無器 | 裏  | (13.2) | -     | (1.2)  | ロクロナデ、自然崩れ      | ロクロナデ      | 砂粒・白鈍少・重合有       | B-5  |
| 6    | E-481  | SD2575B | 堆積土 | 須無器 | 裏  | (12.6) | -     | (2.85) | 凹面ヘラケズリ、ロクロナデ   | ロクロナデ      | 粘土・砂粒・石英・黑色粘合有   | B-6  |

第22図 第312次調査 出土遺物



第23図 SD2575A・B変遷図

明な部分が多い。今回検出したSD2575溝跡は新旧2時期が確認された。旧期(SD2575B)は新期(SD2575A)により部分的な確認であるが、上幅約3.1m、深さ0.8mで断面形状は逆台形状を呈すると考えられ、新期(SD2575A)は上幅2.2m、深さ1.4mで断面形状はV字に近い形状を呈し、上部では人為堆積層が確認された。周辺調査で確認された大溝の規模や断面形状から旧期(SD2575B)の規模・断面形状は比較的類似するが、新期(SD2575A)の溝跡は形状、堆積状況が異なっており、別の機能をもつた遺構である可能性も考えられる。新期(SD2575A)の溝跡がII期官衙の時期に付属していたのかを含め、周辺での調査の蓄積を待ち検討が必要である。



第24図 方四町II期官衙 北辺大溝



1. 調査区完掘全景（北東から）

写真図版7 郡山遺跡第312次調査（1）



1. SD2575A・B 土層断面（東から）



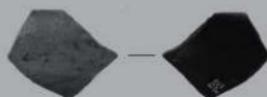
2. SD2575A・B 土層断面（西から）



3. 調査区南半完掘全景（南から）



4. P4 土層断面（北から）



1  
(第22図1)



2  
(第22図3)



3  
(第22図4)



4  
(第22図2)



5  
(第22図5)



6  
(第22図6)

写真図版8 郡山遺跡第312次調査（2）・出土遺物

## V. 第313次発掘調査

### 1. 調査経過と調査方法

本調査は史跡整備に伴う範囲確認調査である。方四町II期官衙中枢部における建物配置やその規模確認を主要な目的とした。

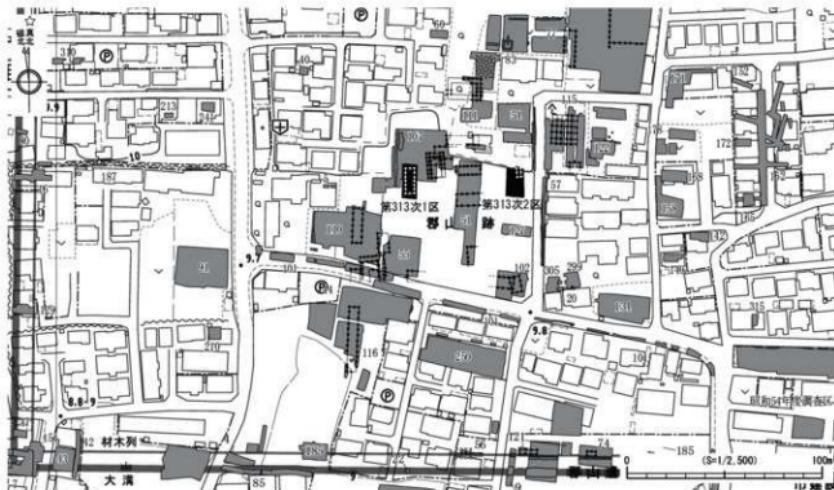
8月18日に1区、翌19日に2区の盛土および表土を重機により除去し、23日より精査を開始した。精査は1区と2区を併行して行った。10月5日に現地にて指導委員会を開催し、助言を頂いた。10月19日に2区北東部で柱穴を確認したため、北側に調査区を一部拡張し、その続きを確認した(SB2585)。10月19日までにすべての調査を終了し、10月19・20日に遺構の保護のため、土嚢袋およびブルーシートにより上面を保護した上、重機により埋め戻しを行った。

調査区は方四町II期官衙中枢部における正殿跡(SB1250)の南西部(1区)と南東部(2区)の2箇所を設定した。1区は第107次調査と一部重複し、第107次調査で一部検出された西廄殿跡(SB1545)と推定される建物の規模確認を目的とし、2区は正殿跡(SB1250)と南門跡(SB712)を結んだ方四町II期官衙推定中軸線(第31図)を挟んだ1区の対称地点における建物跡の確認を目的として設定した。調査区の規模は、1区は東西8m、南北18m、2区は東西9.5m、南北15mである。

遺構の記録は平面・断面図をS=1/20で作製し、記録写真は35mmモノクロフィルムとリバーサルフィルムと併せてデジタルカメラを用いて撮影した。

### 2. 基本層序

基本層を大別で3層確認した。現表土および耕作土であるI～II層直下のIII層上面で遺構の検出作業を行った。なお、2区ではIII層上面より深さ約20～30cmの天地返しが調査区全域に及んでおり人力で天地返しを除去後、遺構検出を行った。



第25図 第313次調査区位置図

## V. 第 313 次調査

### 3. 検出遺構と出土遺物

1 区では掘立柱建物跡 3 棟、溝跡 3 条、土坑 1 基、性格不明遺構 2 基、2 区では板塀跡 1 列、柱列跡 1 列、掘立柱建物跡 2 棟、井戸跡 1 基、溝跡 2 条を検出した。

#### 1 区

##### 【SB1595A・B 掘立柱建物跡】(第 26 図)

調査区北側で検出された。一部は第 107 次調査で確認されていた。南北 3 間 (総長約 7.8m)、東西 3 間 (総長約 7.8 m)、柱間寸法は 240 ~ 276cm の総柱建物跡で、方向は北柱列で E -32° -S である。柱穴掘方の規模は直径 80 ~ 140cm で、隅丸方形またはやや不整の隅丸方形を呈している。柱痕跡は 28 ~ 34cm である。また、ほぼ同位置・同規模で柱穴の重複が認められることから建て替えられている。遺物は掘方から土師器片 5 点や須恵器片 2 点が出土した。SB1545・1605 掘立柱建物跡、SD2579 溝跡より古い。

##### 【SB1605 掘立柱建物跡】(第 26 図)

その大部分は第 107 次調査で確認されており、本調査では南桁行と北桁行の一部を確認している。梁行 3 間 (総長約 6.7m)、桁行 8 間 (総長約 17.6 m)、柱間寸法は 168 ~ 247cm の東西棟の側柱建物跡で、方向は北桁行で E -31° -S である。柱穴掘方の規模は直径 96 ~ 194cm で、隅丸方形またはやや不整の隅丸方形を呈している。柱痕跡は 28 ~ 42cm であり部分的に抜取穴を伴っている。遺物は掘方から須恵器片 2 点が出土した。SB1595A・B 掘立柱建物跡より新しく、SB1545 掘立柱建物跡、SD2579 溝跡より古い。

##### 【SB1545 掘立柱建物跡】(第 26・27・30 図)

方四町 II 期官衙中枢部の西脇殿と推定される建物跡である。第 107 次調査で確認されていたが部分的な検出であり、今回の調査でその規模を明らかにすことができた。桁行 6 間 (総長約 12.7m)、梁行 2 間 (総長約 4.4m) の規模で、柱間寸法は 198 ~ 228cm である。方向は西桁行で N-2.35° -E で真北からやや東傾する。柱穴掘方の規模は直径 78 ~ 108cm で隅丸方形を呈する。柱痕跡は 18 ~ 28cm で、NIW2・N1W3・N2W1・N7W3 では柱抜き取り穴を伴っている。N1W1 を除きすべての柱痕跡にわざかではあるが焼土や炭化物を含んでおり、掘方理土からは認められないことから、火災により焼失した可能性がある。遺物は土師器片 8 点、須恵器片 3 点、金属製品 2 点が出土した。このうち N6W3 出土の不明鉄製品を図示した (第 30 図 5)。SB1595A・B・1605 掘立柱建物跡より新しく、SD2579 溝跡より古い。

##### 【SD2579 溝跡】(第 26・27 図)

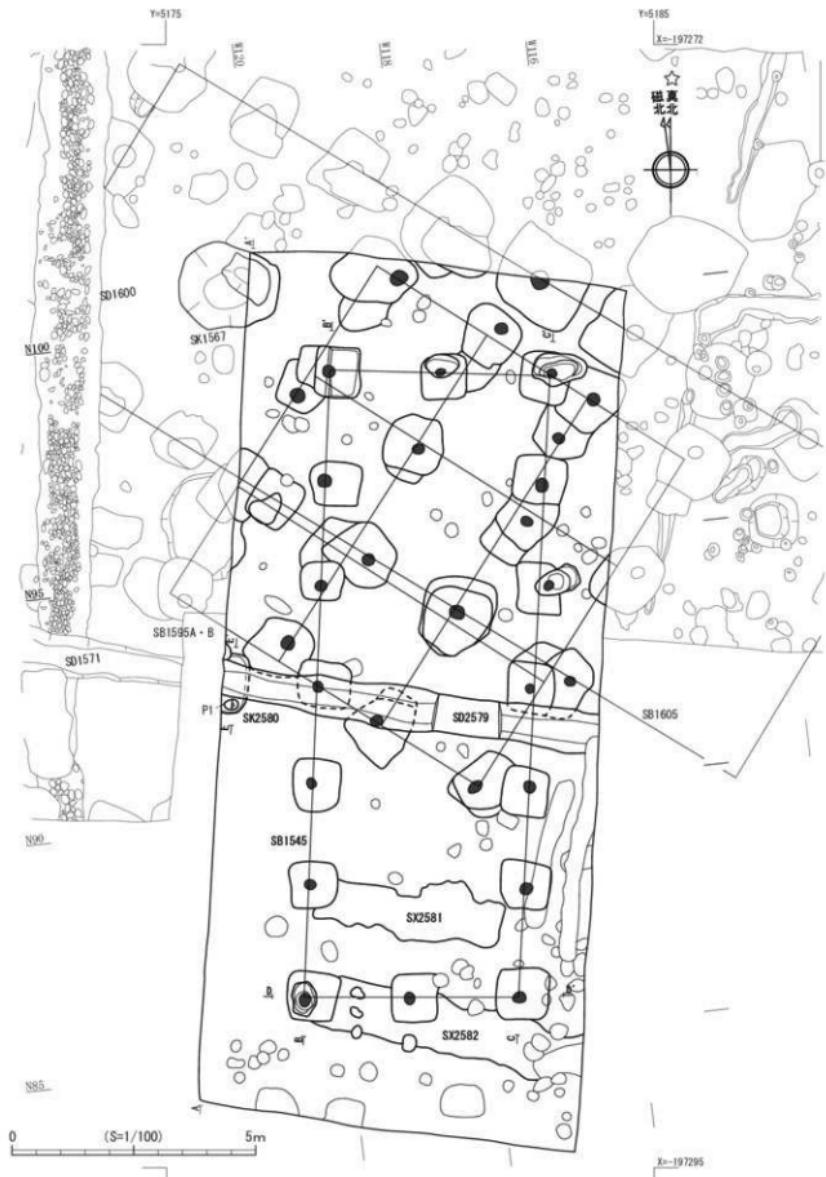
N-8° -W 方向に延びる検出長 7.9m の溝跡でその両端は調査区外に延びる。上幅約 85cm、下幅約 35cm、深さ約 25cm の規模を持つ。断面形は逆台形状を呈し、堆積土は単層である。第 107 次調査 SD1571 と同一の遺構と考えられる。遺物は土師器片 25 点、須恵器片 1 点が出土した。SB1595A・B・1605・1545 掘立柱建物跡、SK2580 土坑より新しい。

##### 【SK2580 土坑】(第 26・27 図)

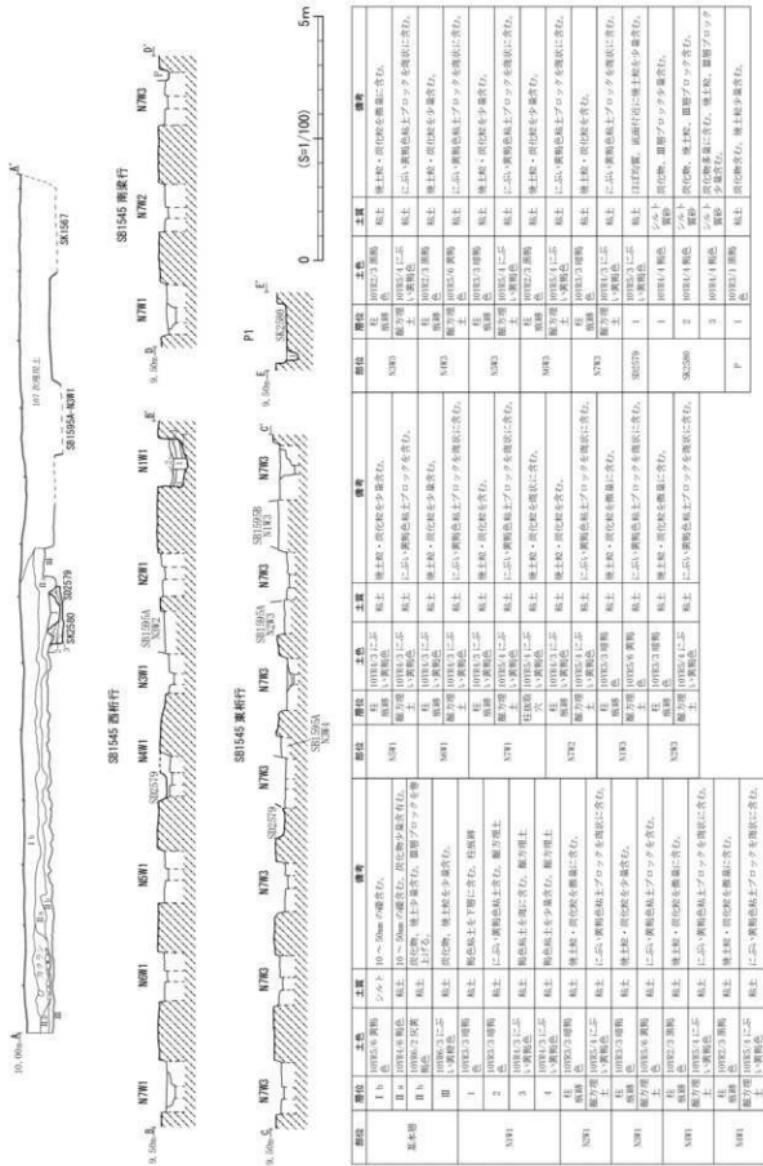
部分的な検出であり、調査区の西側に続く。確認した規模は南北長 130cm、東西長 50cm で、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。深さは約 30cm で、壁面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈する。堆積土は 3 層に分層され、いずれも炭化物と焼土を含む人為堆積層である。遺物は須恵器片 1 点が出土した。SD2579 溝跡より古く、P1 より新しい。

##### 【SX2581・2582 性格不明遺構】(第 26 図)

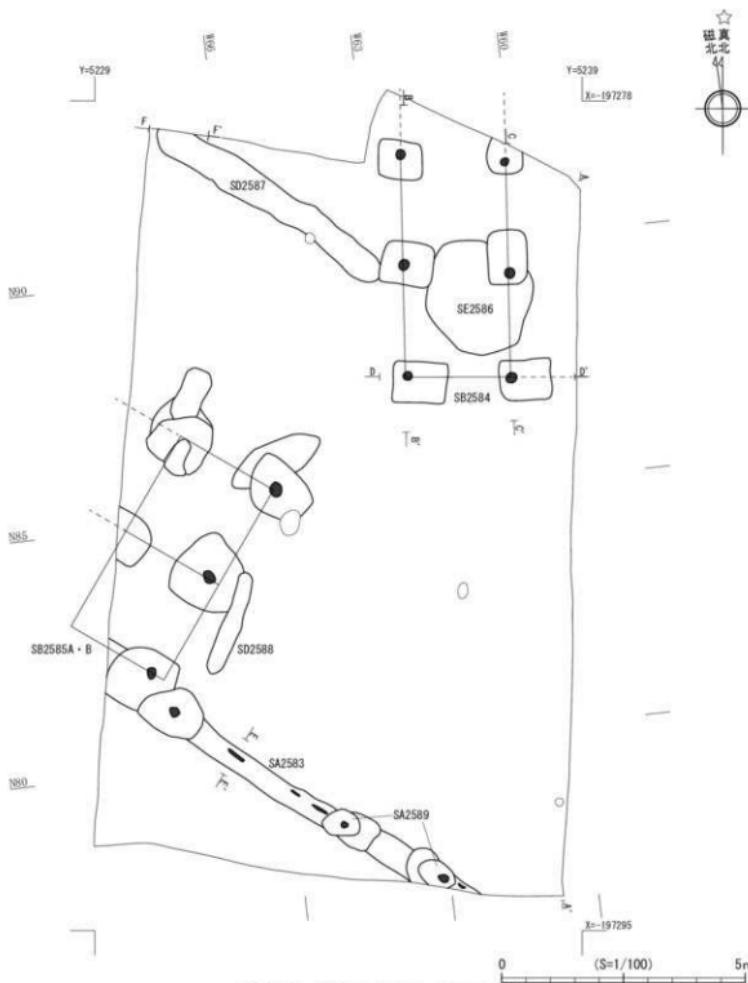
調査区南側で検出された。規模はそれぞれ SX2581 が南北長 1.2 m、東西長 3.9 m、SX2582 が南北長 1.1 m、東西長 5.4 m 以上の範囲に広がる。SB1545 の柱穴段下げ時の壁面から底面が認められないことから、少なくとも 20cm 以上の深さがあることが確認された。遺物は出土していない。SB1545 掘立柱建物跡より古い。



第26図 第313次調査 1区平面図



第27圖 第313次調査 1区断面図



第28図 第313次調査 2区平面図

## 【ピット】(第26図)

調査区全体で76基のピットの可能性があるプランを確認したが、調査期間の関係で精査は部分的にのみ行い、段下げは一部のピットのみに留めており、耕作痕の可能性があるものも含まれている。

## 2区

## 【SA2583 板堀跡】(第28・29図)

調査区南側で、E-32°-S方向に延びる板堀跡が検出された。検出長4.5mで、その両端は調査区外に延びる。

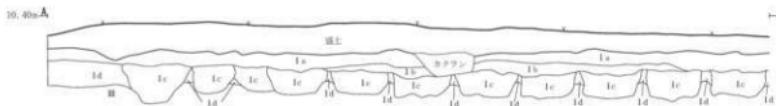
V. 第313次調査

上幅約30cmの布堀状の溝の中に、幅約5cm、長さ20～40cm板材の痕跡が並んで検出された。なお、板材の痕跡は掘方中央よりやや北に寄って検出されている。第51次調査のSA651板塀跡や第107次調査のSA1620板塀跡と一連のものと考えられる。遺物は土師器片が5点出土した。SA2589柱列跡、SB2585掘立柱建物跡よりも古い。

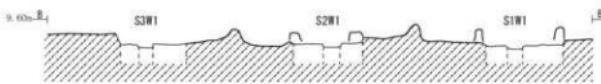
【SA2589柱列跡】(第28図)

SA2583板塀跡と重複する形で並ぶ2基の柱穴を検出した。柱穴の規模は58～88cmであり、柱痕跡は15～

東壁



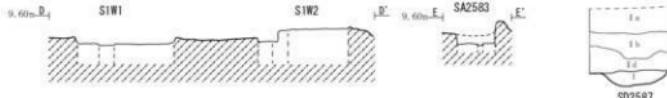
SB2584 西柱列



SB2584 東柱列



SB2584 南柱列



10.40m E<sub>4</sub>

E<sub>4</sub>

0 (S=1/60) 2m

| 備考   |                                     |                   |                                     | 備考     |                                     |                                    |                      |
|------|-------------------------------------|-------------------|-------------------------------------|--------|-------------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 部位   | 層位                                  | 土色                | 土質                                  | 部位     | 層位                                  | 土色                                 | 土質                   |
| 基本層  | I-a                                 | 10W6/6 明黄<br>褐色   | 細砂<br>宅地造成土。                        | S1W2   | 柱 10W3/3 墓期<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>埋土  | 柱 10W3/3 墓期<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>粘土 | ほぼ均質。                |
|      | I-b                                 | 10W5/4 黄褐色<br>色   | シルト<br>10～50mmの礫含む。                 | S2W2   | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 に赤<br>埋土   | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 に赤<br>埋土  | にぶい黄褐色粘土ブロックを含む。     |
|      | I-c                                 | 10W3/3 墓期<br>褐色   | 粘質シ<br>ルト<br>黄褐色粘土を既存に含む。 天然段丘層。    | SE2586 | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 に赤<br>埋土   | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 に赤<br>埋土  | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。      |
|      | I-d                                 | 10W4/1 黄褐色<br>III | 粘土<br>炭化物を少量含む。<br>10W5/4 黄褐色<br>II | S2583  | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 に赤<br>埋土   | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 に赤<br>埋土  | にぶい黄褐色粘土ブロックを含む。     |
| S1W1 | 柱 10W1/3 に赤<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>埋土  | 粘土                | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。                     | S3W2   | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>埋土  | 粘土                                 | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。      |
|      | 柱 10W5/4 に赤<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>埋土  | 粘土                | にぶい黄褐色粘土粒を既存に含む。                    | SE2586 | 柱 10W3/2 黒褐色<br>板塀 10W4/3 黑褐色<br>埋土 | 粘土                                 | にぶい黄褐色粘土。 炭化物粒を少量含む。 |
| S2W1 | 柱 10W1/3 に赤<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>埋土  | 粘土                | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。                     | SA2583 | 柱 10W4/3 黑褐色<br>板塀 10W4/3 黑褐色<br>埋土 | 粘土                                 | ほぼ均質。                |
|      | 柱 10W5/4 黄褐色<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>埋土 | 粘土                | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。                     | SD2587 | 柱 10W3/3 墓期<br>板塀 10W3/3 墓期<br>埋土   | 粘土                                 | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。      |
| S3W1 | 柱 10W5/4 黄褐色<br>板塀 10W5/4 黄褐色<br>埋土 | 粘土                | にぶい黄褐色粘土粒を少量含む。                     |        |                                     |                                    |                      |

第29図 第313次調査 2区断面図

20cmである。また柱間は220cmである。ほぼ同位置に同規模の柱穴が認められることから、これらの柱穴は堀直されていると考えられる。遺物は出土していない。SA2583 板塀跡より新しい。

#### 【SB258A・B 挖立柱建物跡】(第28図)

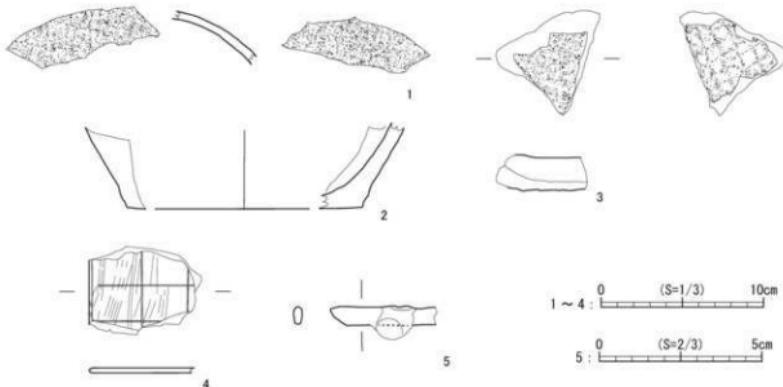
南側で一部検出され、調査区の西側に続く。SA2583 板塀跡に取り付くように配置され、柱穴掘方は、重複関係より SA2583 板塀跡より新しいことが確認できる。南北2間(長総4.5m)、東西1間以上(長総2.1m以上)の規模で、柱間寸法は220~229cmの総柱建物跡である。方向は北柱列でE-31°~Sである。柱穴掘方は直径95~133cmの規模を持ち、隅丸方形ないし、やや不整な隅丸方形を呈する。柱痕跡は23~35cmで、一部では柱の抜取穴を伴っている。また、一部で柱穴の重複が確認されることから、建て替えられている。遺物は土師器片が12点出土した。SA2583 板塀跡より新しく、SD2588 溝跡より新しい。

#### 【SB2584 挖立柱建物跡】(第28・29図)

調査区北側で南北2間、東西1間に並ぶ柱穴を確認した。調査区の北東側に続くと考えられる。南北2間以上(長総4.5m以上)、東西1間以上(2.2m以上)の規模で、方向は西側の南北列でN-1.28°~Wで真北からやや西傾する。柱穴掘方の規模は72~112cmであり、柱間寸法211~228cm、柱痕跡は18~22cmである。柱穴の配置から西面に廟の付く南北棟の建物跡と推定される。遺物は土師器片1点、須恵器片3点が出土し、このうち須恵器の甕を図示した(第30図1)。SE2586 井戸跡、SD2587 溝跡より新しい。

#### 【SE2586 井戸跡】(第28図)

調査区北側で検出された。規模は長軸228cm、短軸215cmの規模で平面形状は円形を呈する。今回は平面プランの検出のみに留めたため、詳細は不明だがその規模や形状から井戸跡と考えられる。遺物は土師器片が1点出土し



| 図版<br>番号 | 登録<br>番号 | 出土<br>遺構 | 層位          | 種別   | 部材  | 法量(cm) |        |               | 外面                                 | 内面   | 備考   | 写真<br>図版 |
|----------|----------|----------|-------------|------|-----|--------|--------|---------------|------------------------------------|--|------|----------|
|          |          |          |             |      |     | 口径     | 直径     | 高さ            |                                    |  |      |          |
| 1        | E-683    | SB2584   | N2W1 壁面     | 須恵器  | 板   | -      | -      | (2.3)         | 体:ロクロナデのち格子叩きのちナデ<br>ナデ            | 粘土・砂粒・石英・0.5~2mm<br>ほどの白色粒を含む<br>焼成良好                  | 11-1 |          |
| 2        | E-682    | -        | 天地呑         | 須恵器  | 蓋   | -      | (14.3) | (5.6)         | 格子叩きのちナデ                           | 体:ロクロナデのち<br>ナデ<br>粘土・砂粒・石英・0.5ミリほど<br>の白色粒を含む<br>焼成良好 | 11-2 |          |
| 3        | G-182    | -        | 107次<br>埋設土 | 瓦    | 平瓦  | (6.9)  | (5.3)  | 1.9~<br>2.1   | 表面:格子叩きのちナデ<br>画面:有目柄のちナデ<br>粘土・砂粒 | 焼成良好   | 11-3 |          |
| 4        | K-824    | -        | 107次<br>埋設土 | 石製品  | 石製品 | (6.5)  | (5.8)  | 0.3           | 石材                                 | 粘板岩  | 11-4 |          |
| 5        | N-170    | SB1545   | N2W3 壁面     | 金属製品 | 不明  | (3.3)  | 0.5    | (0.2~<br>0.3) |                                    |  |      | 11-5     |

第30図 第313次調査出土遺物

## V. 第313次調査

た。SB2584 挖立柱建物跡より古い。

### 【SD2587 溝跡】(第28・29図)

調査区北側で検出された、S-34° -E 方向に延びる溝跡である。検出長は5.4mで、西端は調査区外へと続き、東端は調査区中央で途切れる。上幅60~75cm、深さ約20cmの規模で、断面形状は逆台形状を呈し、堆積土は単層である。遺物は出土していない。SB2584 挖立柱建物跡より古い。

### 【SD2588 溝跡】(第28図)

調査区南側で検出された、N-20° -E 方向に延びる溝跡である。検出長は2.3mで、上幅45~50cmの規模をもつ。平面プランの検出に留めているため、詳細は不明である。遺物は出土していない。SB2585A・B 挖立柱建物跡より新しい。

### 【ピット】(第28図)

調査区全体で4基のピットの可能性があるプランを確認した。いずれも柱痕跡は確認されなかつた。

### 【遺構外出土遺物】

基本層、天地返し層、107次調査埋戻し土から土師器片54点、須恵器片36点、瓦片1点、石製品2点が出土し、このうち、須恵器壺(第30図2)、平瓦(第30図3)、近代の石盤(第30図4)を図示した。

## 4.まとめ

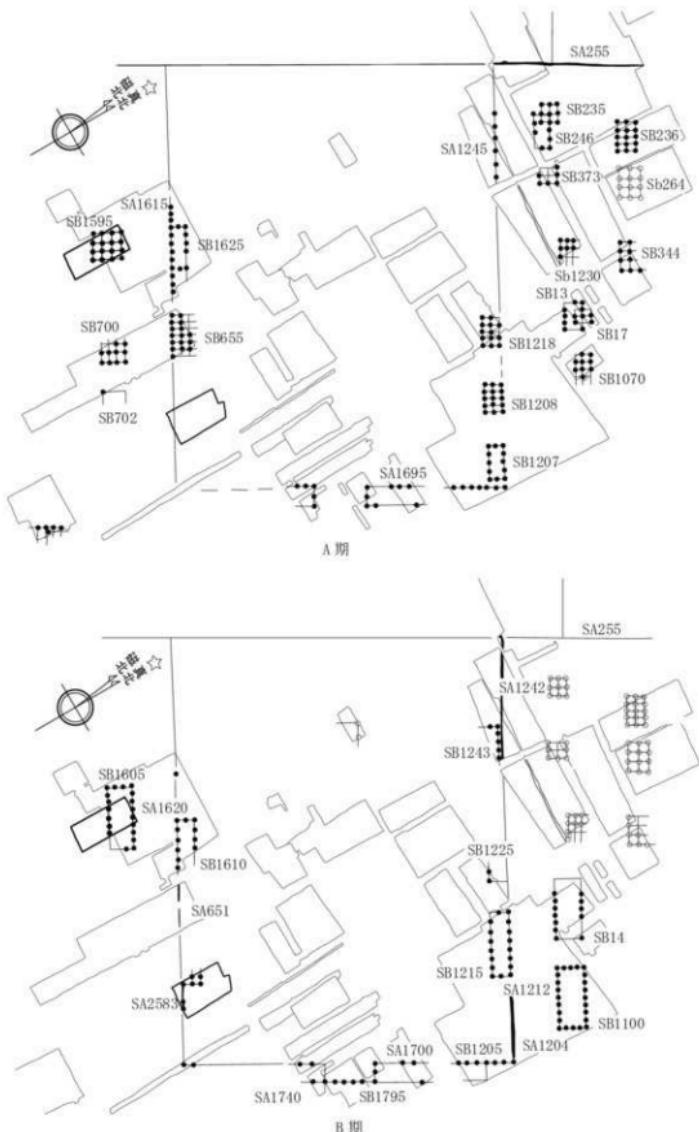
第313次調査は郡山遺跡I期・II期官衙の中枢部に位置し、I期官衙の遺構と考えられるものは板塀跡1列(SA2583)、柱列跡(SA2589)1列、掘立柱建物跡3棟(SB1595A・B・1605・2585A・B)、溝跡1条(SD2587)、井戸跡1基(SE2586)である。I期官衙中枢部の遺構配置はこれまでの調査により、一本柱列による区画内に、総柱建物跡を主体とするI A期から、板塀により区画し、側柱建物を主体とするI B期への変遷が認められる(第31図)。I A期の遺構としてはSB1595A・B、I B期の遺構としてはSA2583・2589、SB1605・2585A・Bが確認された。これまでI B期における総柱建物跡は中枢部の区画より北東に位置する倉庫群で確認されるが、中枢部では確認されていない。今回、検出されたSB2585は総柱建物と推定されるが、SA2583板塀跡との重複関係よりI B期に属するか、それよりも新しい時期のものと考えられる。また、SA2583板塀と重複するSA2589柱列を検出したが、これまでの調査で区画施設より中枢部区画内に展開する建物跡は認められるが、外側に展開する建物を検出していないことから、板塀跡の補助的な柱穴か修復によるものであることを想定したい。

II期官衙の遺構としては掘立柱建物跡2棟(SB1545・2584)、溝跡1条(SD2579)、土坑1基(SK2580)が検出された。本調査の目的とした方四町II期官衙における西脇殿(SB1545)の規模確定と、その対称地点における建物配置については調査の結果、次のことが明らかになった(第32図)。

SB1545 挖立柱建物跡は桁行6間(総長12.7m)、梁行2間(総長4.4m)の規模であることが判明した。建物方向はN-2.35° -Eと真北からやや東に振れる。東列・西列の2列に並ぶ南北棟のSB1650・526・208・1730等と同様の傾きであり、真北から0.5~3° 東に振れる方向の建物跡はII期官衙創建期と推定されている。

また、その柱穴の掘方埋土からは焼土や炭化物が認められない一方で、ほぼすべての柱痕跡から焼土粒や炭化粒が確認され、火災に遭った可能性が考えられる。また、同時期かは検討の余地があるが、SB1545建物跡の西側で検出されたSK2580土坑からは炭化物や焼土混じりの土が人为的に埋められた痕跡が確認できた。II期官衙の時期では、方四町II期官衙ではSB1555(107次調査)・東区1号掘立柱建物跡(昭和54年度調査区)で、南方官衙東地区ではSB1306・1326(共に65次)で火災に遭った痕跡が認められ、火災の規模等、その廃絶について注視していくべき課題である。

方四町II期官衙庁域の建物配置については、これまで郡山遺跡でも他の国府跡と同様に正殿を中心とした左右対称の建物配置がなされていると推定していたが、今回の調査で建物が左右対称に配置されていないことが判明し、

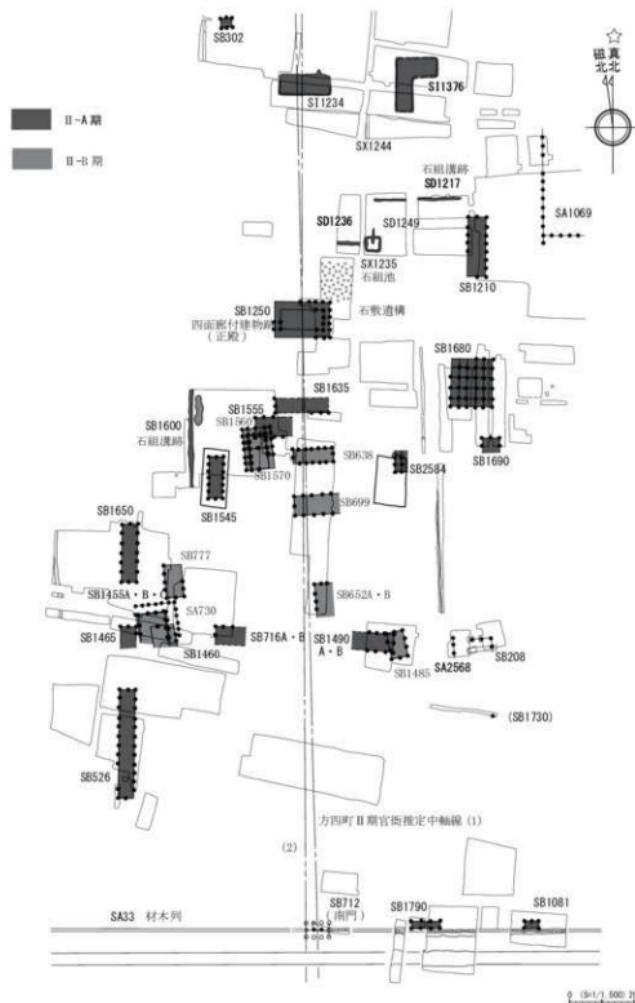


第31図 I期官衙中枢部主要遺構配置図

V. 第313次調查

政庁域の建物配置について再検討する必要が出てきた。

その他に、政府城東側で廟が付くと推定される建物跡（SB2584）を検出した。方向はN-1.28°-Wでやや西に振れる。真北方向から0.2~2°西に振れる建物は、II A期でも後半の建物跡と推定される。廟付建物は遺跡内での検出も少なく重要な機能を持った建物跡と推定され、今後、その規模や構造について確認する必要がある。



第32図 方四町Ⅱ期官衙中枢部主要遺構配置図



1. 調査区遠景（南から）



2. 1区 SB1545 掘立柱建物跡（南から）

写真図版9 郡山遺跡第313次調査（1）



1. 1区 調査区全景（北が上）



2. SB1605・1595 挖立柱建物跡（南西から）



3. SB1545-N7W1 柱穴抜取穴断面（東から）



4. SD2579 溝跡・SK2580 土坑土層断面（東から）



5. 2区 拡張前調査区全景（南西から）

写真図版 10 郡山遺跡第313次調査（2）



1. SA2583 板塀跡（南東から）



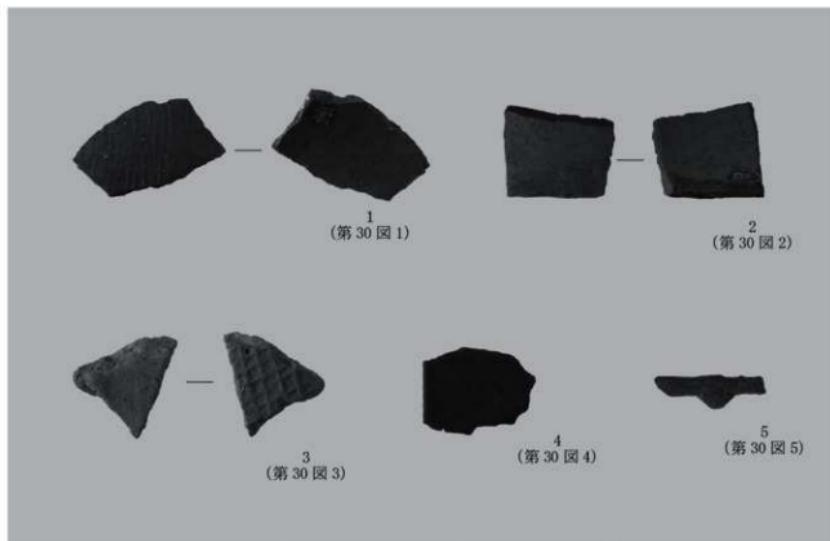
2. SB2584 掘立柱建物跡（南東から）



3. SB2585 掘立柱建物跡（南西から）



4. SD2587 溝跡（南西から）



1  
(第30図1)

2  
(第30図2)

3  
(第30図3)

4  
(第30図4)

5  
(第30図5)

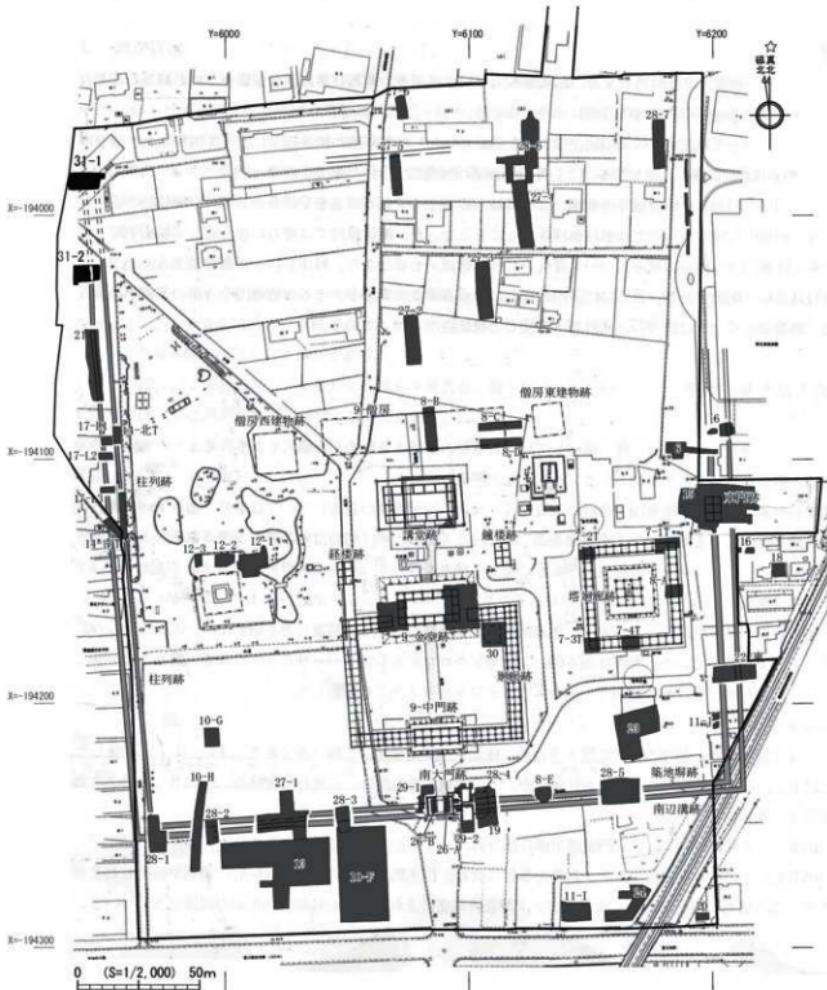
写真図版 11 郡山遺跡第313次調査（3）・出土遺物

## 第3章 陸奥国分寺跡

### I. 第31次発掘調査

#### 1. 調査経過と調査方法

陸奥国分寺跡は若林区木ノ下に所在する。大正11年（1922）に国史跡となり、昭和30年から34年にかけて実施された学術調査により主要伽藍の概要が明らかになっている。その後、昭和47年からは史跡公園として整備す



第33図 第31次調査区位置図（数字は調査次数を示す、第1～5次を除く）

るため、断続的な調査が行われてきた。第31次調査は平成20年（第29次調査）以来の史跡整備に伴う範囲確認調査であり、これまで未確定であった寺地北辺を明らかにすることを目的とした。

6月3日に1区、6月7日に2区の表土を重機により除去し、翌日から精査を開始した。精査は1区と2区併行して行い、7月19日にすべての調査を終了した。7月20日に遺構の保護のため、土嚢袋およびブルーシートにより上面を保護した上、重機により埋め戻しを行った。

調査区は遺跡北西部の2箇所を設定した。第5・14・17・21次調査で確認されている、寺地西辺を区画する溝跡の北側延長に位置する。北側を1区、南側を2区とし、それぞれ南北6.5m、東西12m、南北6.5m、東西10.5mの規模で設定した。

重機で盛土と旧表土層を除去し、その直下上面で遺構検出を行った。なお、遺構は完掘せず保存することを前提とし、半堀または一部の掘削に留めた。

遺構の記録は平面・断面図をS=1/20で作製し、記録写真は35mmモノクロフィルムとリバーサルフィルムと共にデジタルカメラを用いて撮影した。

## 2. 基本層序

調査では基本層を大別で3層確認した。旧耕作土および旧宅地造成土であるⅠ層直下のⅡ層上面で遺構検出を行ったが、両調査区は現代の開発および耕作によりⅡ層上面は削平を受けており、部分的にしか確認できなかつたため、大半はⅢ層上面で遺構検出作業を行っている。

## 3. 検出遺構と出土遺物

1区では溝跡2条（SD2・3）、井戸跡1基（SE1）、ピット7基（P1～7）、2区では溝跡1条（SD1）、土坑1基（SK1）を確認した。このうち陸奥国分寺跡に係ると判断される遺構はSD1のみである。

### 【SD1溝跡】（第35・37図）

2区で検出された南北方向の溝跡で、その両端は調査区外へと延びる。方向は西肩を基準にN3°Wとほぼ真北を向く。遺構上面は現代の耕作により全体的に削平を受けている。確認された規模は検出長6.1m、上幅107cm、下幅45cm、深さ50cmである。断面形は逆台形状を呈し、堆積土は2層に分けられる。遺物はロクロ土師器2点、平瓦1点、丸瓦1点が出土した。このうち平瓦を掲載した（第37図7）。

### 【SD2・3溝跡】

1区で検出された溝跡で、北に向かって南西—北東方向から北へと湾曲しながら延びる。SD2・3は擾乱により削平され、途切れていますが、位置と規模から同一遺構と考えられる。検出長8.8m、上幅30cmの規模を持ち、深さは約10cmである。断面形はU字形を呈し、堆積土は単層である。遺物は出土していない。

### 【SE1井戸跡】（第34図）

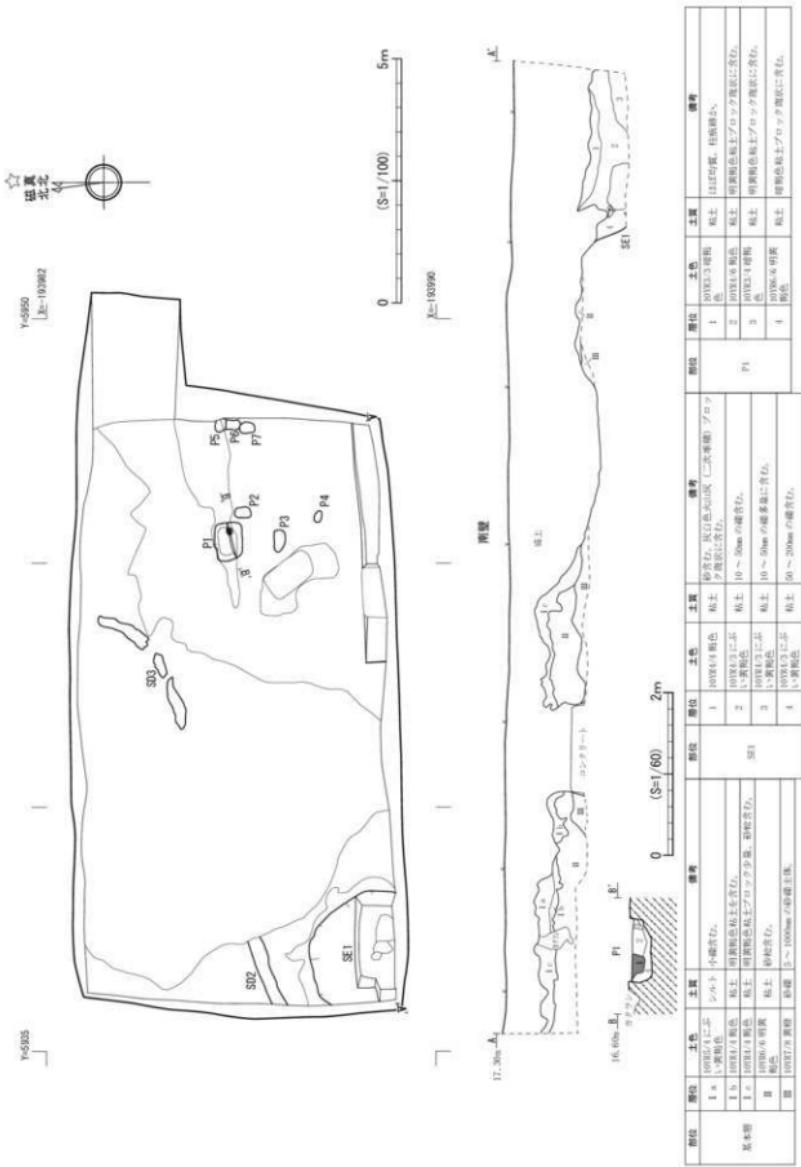
1区南西部で検出された、井戸跡で調査区外へと続く。遺構上面は擾乱により削平されており、検出した規模は東西長228cm、南北長172cmで、平面形は円形を呈すると推定される。安全面を考慮し、検出面から55cmの深さまでの掘削に留めている。堆積土は4層に分けられ、1層は灰白色火山灰の2次堆積層を含む。2層中からは25～50cmの大面取りされた礫が確認されており、石組井戸の可能性もある。遺物は出土していない。

### 【SK1土坑】（第35図）

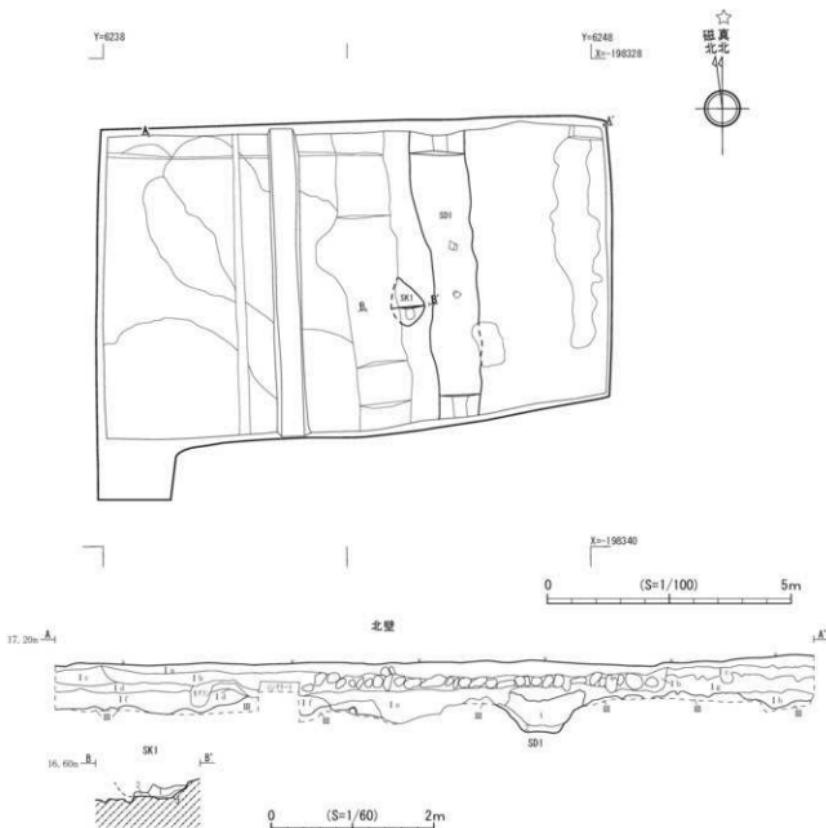
2区のSD1溝跡西側で検出された。遺構上面は耕作土により削平される。確認された規模は長軸102cm、短軸68cm、深さは18cmである。堆積土は3層に分けられる。遺物は出土していない。

### 【ピット】（第34図）

1区で7基検出した。P1で柱痕跡が確認されたが、建物跡を構成する配置は認められない。P1は上面を擾乱により削平され、長軸75cm、短軸59cmの規模である。平面形は隅丸方形を呈し、深さは25cmで、堆積土は4層に



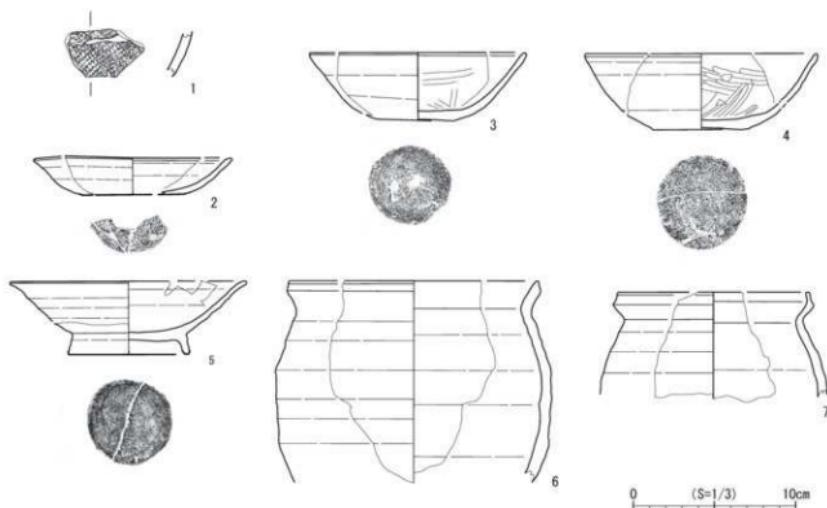
第34回 第31次調査 1区平面・断面図



| 部位  | 層位  | 土色                | 土質         | 備考                                  |     | 部位 | 層位 | 土色 | 土質                | 備考  |     |
|-----|-----|-------------------|------------|-------------------------------------|-----|----|----|----|-------------------|---|-----|
|     |     |                   |            | SDI                                 | SKI |    |    |    |                   | SDI                                       | SKI |
| 基本層 | I a | 10TB4/3に近い<br>黄褐色 | シルト<br>質砂  | 土表                                  |     |    |    | 1  | 10TB4/3に近<br>い黄褐色 | 粘土上<br>砂粒含む。                              |     |
|     | I b | 10TB5/6 黄褐<br>色   | シルト<br>質砂  | 10 ~ 20cmの繊維束に含む。炭化物を多量に含む。<br>釣造土。 |     |    |    | 2  | 10TB4/3に近<br>い黄褐色 | 粘土<br>明黄褐色粘土ブロック状に含む。                     |     |
|     | I c | 10TB5/6 黄褐<br>色   | シルト        | 炭化物含む。5 ~ 10cmの纖少量含む。               |     |    |    | 1  | 10TB4/1 黄色        | シルト<br>明黄褐色粘土ブロック状に含む。50 ~ 200mmの纖含<br>む。 |     |
|     | I d | 10TB4/1 灰灰<br>色   | シルト        | 炭化物復状に含む。                           |     |    |    | 2  | 10TB4/1 黄色        | シルト<br>20mmの小纖含む。                         |     |
|     | I e | 10TB3/3 墓場        | 粘土         | 3 ~ 50cmの纖微弱に含む。                    |     |    |    | 3  | 10TB3/1 墓場        | 粘土<br>江戸均質。                               |     |
|     | I f | 10TB3/2 墓場        | 粘土         | 砂粒含む。明黄褐色粘土ブロック含む。                  |     |    |    |    |                   |   |     |
|     | I g | 10TB4/6 黄色        | 粘土質<br>シルト | 5 ~ 20cmの纖少量含む。                     |     |    |    |    |                   |   |     |
|     | I h | 10TB4/4 黄色        | シルト        | 明黄褐色粘土含む。                           |     |    |    |    |                   |   |     |
|     | III | 10TB5/6 黄褐<br>色   | 砂礫層        | 10 ~ 200mmの砂礫主体。                    |     |    |    |    |                   |   |     |

第35図 第31次調査 2区平面・断面図

I. 第31次調査



| 図版番号 | 登録番号 | 出土遺物 | 部位   | 種別    | 器種 | 法量(cm)                          | 外観                             | 内面                        | 備考                                 | 写真図版 |
|------|------|------|------|-------|----|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------|------------------------------------|------|
|      |      |      |      |       |    | 口径<br>底径<br>高さ                  |                                |                           |                                    |      |
| 1    | A-1  | 17   | II   | 縄文土器  | 灰陶 | —<br>—<br>(2.8)                 | LK 横位施文 器面斜落                   | ナゲ                        | 粘土 砂粒・石英 織成や砂良                     | 14-1 |
| 2    | B-2  | 27   | I f. | 赤焼土器  | 灰  | (12.2)<br>(6.3)<br>2.3 ~<br>2.4 | ロクロナゲ 直: 切り離し不明                | ロクロナゲ                     | 粘土 砂粒・石英 種小の褐色粒少量含む 白粉塵少量含む 織成     | 14-2 |
| 3    | B-6  | 27   | I f. | ロクロ土器 | 灰  | (13.2)<br>(4.7)<br>4.2          | ロクロナゲ 直: 切り離し斜面(未切り<br>摩耗している) | ロクロナゲ~ラミガ<br>黒色均斑ナ        | 粘土 砂粒・石英 織成良                       | 14-3 |
| 4    | B-5  | 27   | I f. | ロクロ土器 | 灰  | (14.0)<br>5.9                   | ロクロナゲ 直: 切り離し斜面(未切り<br>摩耗)     | ロクロナゲ~ラミガ<br>含む 白粉塵含む 織成良 | 粘土 砂粒・石英 織成良                       | 14-4 |
| 5    | B-1  | 27   | I f. | ロクロ土器 | 高井 | (14.6)<br>7.5                   | 4.5 体: ロクロナゲ 直: 回輪未切引          | ロクロナゲ                     | 粘土 砂粒・石英 織成良                       | 14-5 |
| 6    | B-4  | 27   | I f. | ロクロ土器 | 灰  | (15.0)<br>—                     | (12.3) ロクロナゲ                   | ロクロナゲ                     | 粘土 砂粒・石英 白粉少量含む<br>織成良             | 14-6 |
| 7    | B-3  | 27   | I f. | ロクロ土器 | 灰  | (11.8)<br>—                     | (6.3) ロクロナゲ                    | ロクロナゲ                     | 粘土 砂粒・石英 + テリなどの<br>黒色粒を散在する含む 織成良 | 14-7 |

第36図 第31次調査出土遺物（1）

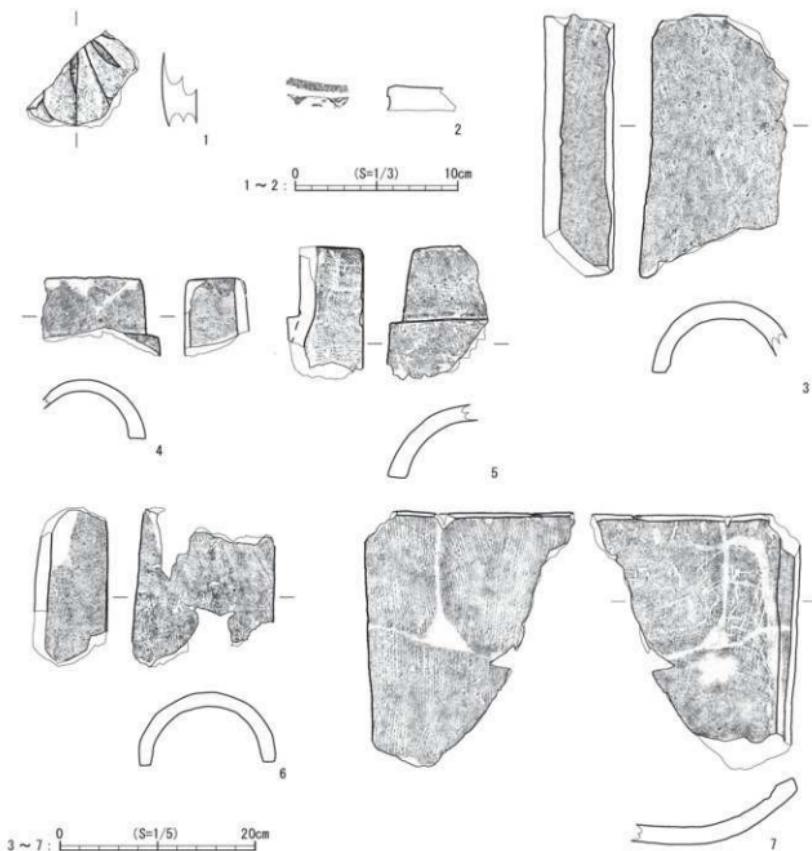
分けられる。遺物は出土していない。

【出土遺物】（第36～38図）

出土した遺物は1区で縄文土器1点、丸瓦5点、平瓦3点、2区で土師器片（赤焼土器含む）298点、須恵器片1点、丸瓦55点、平瓦268点、鉄滓4点、陶磁器片25点である。SD1出土の土師器2点、瓦2点を除き基本層中からの出土であり、2区と比べ、1区では出土量が僅少である。このうち縄文土器、ロクロ土師器、赤焼土器、平瓦、丸瓦を掲載した（第36～38図）。

4.まとめ

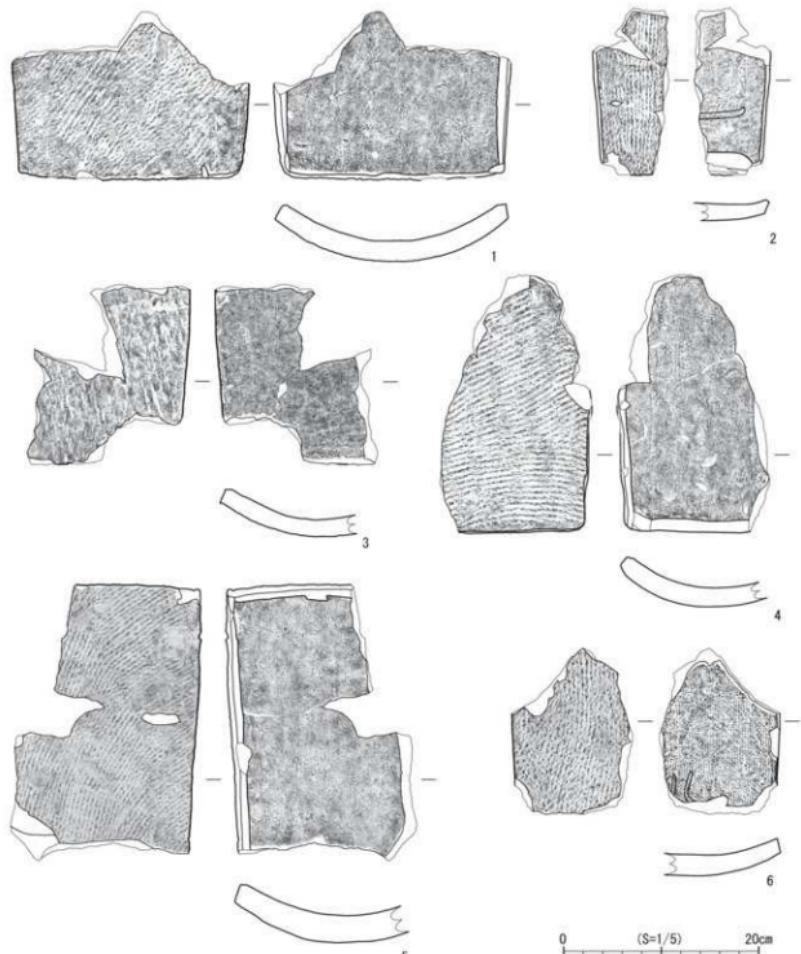
第31次調査は陸奥国分寺跡の寺地北辺を明らかにすることを目的として実施した。調査の結果、その北辺について明らかにすることが出来なかつた。2区で検出されたSD1溝跡は第14・17・21次調査で確認されている、寺地西辺を区画する溝跡の延長と考えられる。今回の調査により、陸奥国分寺跡の範囲が南北240m以上に及ぶことが改めて確認された。なお、第14次調査では区画溝の東側（伽藍中心側）約2.8mの位置で築地盤の寄柱列と推定される2.8～3.5m間隔の柱跡が確認されている。2区ではSD1の東辺約2.5～2.8mまで精査を行つたが、平面および東壁面で柱跡は確認されなかつた。



| 実物<br>番号 | 書類<br>番号 | 出土<br>遺構 | 層位  | 種別 | 器種  | 測量 (cm)       | 備考  | 写真<br>図版 |
|----------|----------|----------|-----|----|-----|---------------|---|----------|
|          |          |          |     |    |     | 長さ<br>幅<br>厚さ |   |          |
| 1        | F-4      | 27       | I e | 瓦  | 軒瓦  | (5.5) (4.6)   | 2.1<br>瓦当面：唐印畫模文・粘土・砂粒・石英・白色粉を含む 復成品                              | 14-6     |
| 2        | G-5      | 27       | I g | 瓦  | 軒平瓦 | (3.4) (3.9)   | 1.4~2.4<br>瓦当面：通底文・粘土・砂粒・石英・1~2ミリほどの白色粉を含む 復成品                    | 14-9     |
| 3        | F-1      | 27       | III | 瓦  | 丸瓦  | (21.8) (13.5) | 2.0<br>内面：模タタケリナギ、凹面：布目柄、輪部ヘラケズリ粘土・砂粒・石英・3~5ミリの白色粉を含む 復成品         | 14-11    |
| 4        | F-2      | 27       | III | 瓦  | 丸瓦  | (6.0) (12.0)  | 1.2<br>内面：ナギ、凹面：布目柄、輪部ヘラケズリ粘土・砂粒・石英・3~5ミリの白色粉を含む 復成品や他品           | 14-12    |
| 5        | F-3      | 27       | I e | 瓦  | 丸瓦  | (13.7) (9.9)  | 1.4~2.7<br>内面：ナギ、凹面：布目柄、輪部ヘラケズリ粘土・砂粒・石英・白色の小石少量・白色少量 復成品          | 14-13    |
| 6        | F-5      | 27       | I g | 瓦  | 軒瓦  | (6.0) (14.2)  | 1.2<br>内面：模タタケリナギ、ヘラ著き？ 凹面：布目柄、輪部ヘラケズリ 粘土・砂粒・石英・他の小石少量 復成品        | 14-15    |
| 7        | G-6      | 2TS01    | I   | 瓦  | 平瓦  | (26.0) (20.7) | 1.8<br>内面：模タタケリナギ、輪部ヘラケズリ 凹面：布目柄+ナギ 粘土・砂粒・石英・2ミリほど<br>の白色粉を含む 復成品 | 14-16    |

第37図 第31次調査出土遺物（2）

I. 第31次調査



| 圖版<br>番号 | 骨格<br>番号 | 出土<br>遺構 | 部位  | 種別  | 基準 | 法量 (cm)       | 備考           | 写真<br>番号  |
|----------|----------|----------|-----|-----|----|---------------|--------------|---|
|          |          |          |     |     |    | 長さ 傷<br>幅     | 厚さ           |   |
| 1        | G-2      | 2T       | ■   | 瓦   | 平瓦 | (17.2) (24.4) | 1.2 ~<br>1.8 | △面：縫タタキナギ。面面：布目施。縫部ヘラケズリ。粘土・砂粒・石英。焼成員                       |
| 2        | G-7      | 2T       | I-e | 瓦   | 平瓦 | (17.2) (7.8)  | 1.8          | △面：縫タタキ (タタキ目剥れ)。面面：布目施。粘土？。粘土・砂粒・白色粘土含む。焼成員                |
| 3        | G-3      | 2T       | I-e | 瓦   | 平瓦 | (18.5) (16.2) | 1.7 ~<br>1.9 | △面：縫タタキナギ。面面：布目施+ナゲ石。縫部ヘラケズリ。粘土・砂粒・石英・白色粘<br>土多く含む。焼成員負荷。   |
| 4        | G-1      | 2T       | ■   | 瓦   | 平瓦 | (26.9) (16.0) | 1.8          | △面：縫タタキ、縫部ヘラケズリ。面面：布目施+ナギ。縫部ヘラケズリ。粘土・砂粒・ミミなど<br>の黒色粘土含む。焼成員 |
| 5        | G-4      | 2T       | I-f | 瓦   | 平瓦 | (27.1) (18.0) | 2.75         | △面：縫タタキナギ。縫上施。面面：布目施+ナギ。縫部ヘラケズリ。粘土・砂粒・白色粘土<br>含む。白鉛含む。焼成員   |
| 6        | G-8      | 2T       | I-e | 瓦   | 平瓦 | (16.8) (12.0) | 2.15         | △面：縫タタキ (タタキ目剥れ)。面面：布目施。ヘラ剥き。粘土・砂粒・白色粘土含む。焼成員               |
| 等の76     | N-1      | 2T       | I-e | 鉢製品 | 鉢形 | 8.3           | 0.5          | 2.6 比照溝 150 g   |

第38図 第31次調査出土遺物 (3)

1区では陸奥国分寺跡に係る遺構は確認できなかった。調査区全城が現代の開発による影響を受けていたが、区画溝跡の延長推定ラインは比較的擾乱による影響の少ない位置であり、同じ標高でP1のような遺構も確認されることから、断定は出来ないが、寺地北辺は1区まで及ばない可能性がある。遺物の出土が僅少であることもその可能性を示唆していると思われる。

その他、遺構については部分的な精査に留めたため、時期について特定できず、陸奥国分寺跡に伴うかどうか判断できなかった。今後、周辺での調査の蓄積を待って再検討を要する。

#### 参考文献

及川謙作 2019 「陸奥国府の造営と社会」『第45回古代城柵官衙遺跡検討会—資料集—』

佐藤敏幸 2015 「東北の城柵官衙と土器」『官衙・集落と土器 1—官衙と土器—』

奈良文化財研究所研究報告第15冊

仙台市教育委員会 1982 『郡山遺跡II』仙台市文化財調査報告書第38集

仙台市教育委員会 1984 『郡山遺跡IV』仙台市文化財調査報告書第64集

仙台市教育委員会 1989 「第77次発掘調査」『郡山遺跡IX』仙台市文化財調査報告書第124集

仙台市教育委員会 1996 「第107次発掘調査」『郡山遺跡XVI』仙台市文化財調査報告書第210集

仙台市教育委員会 2005 『郡山遺跡発掘調査報告書 総括編(1)』仙台市文化財調査報告書第283集

仙台市教育委員会 2007 「陸奥国分寺跡」『郡山遺跡27』仙台市文化財調査報告書第307集

仙台市教育委員会 2008 「陸奥国分寺跡 第28次調査」『仙台平野の遺跡群 XVIII』仙台市文化財調査報告書第328集

仙台市教育委員会 2009 「陸奥国分寺跡 第29次調査」『郡山遺跡 29』仙台市文化財調査報告書第347集

仙台市教育委員会 2014 「第241次発掘調査」『郡山遺跡 34』仙台市文化財調査報告書第429集

仙台市教育委員会 2014 『国史跡 陸奥国分寺跡—昭和46～50・53・54年度発掘調査報告書—』

仙台市文化財調査報告書第430集

仙台市教育委員会 2016 『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告書II』仙台市文化財調査報告書第448集

仙台市教育委員会 2018 『郡山遺跡 38』仙台市文化財調査報告書第470集

辻秀人ほか 2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15年度～平成18年度科学研究

費補助金(基盤研究B)研究成果報告書

平間亮輔・齋藤義彦 2008 「郡山遺跡の遺構変遷」『第34回古代城柵官衙遺跡検討会—資料集—』

陸奥国分寺跡発掘調査委員会 1961 『陸奥国分寺跡』

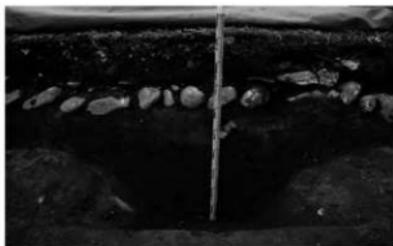
I. 第31次調査



1. 2区 調査区全景（南から）



2. SD1 溝跡検出状況（南から）



3. SD1 溝跡土層断面（南から）



4. SK1 土坑土層断面（南から）



5. 2区遺物出土状況（北西から）

写真図版 12 陸奥国分寺跡第31次調査（1）



1. 1区 調査区全景（南から）



2. P1 土層断面（北から）



3. SE1 井戸跡土層断面（北から）



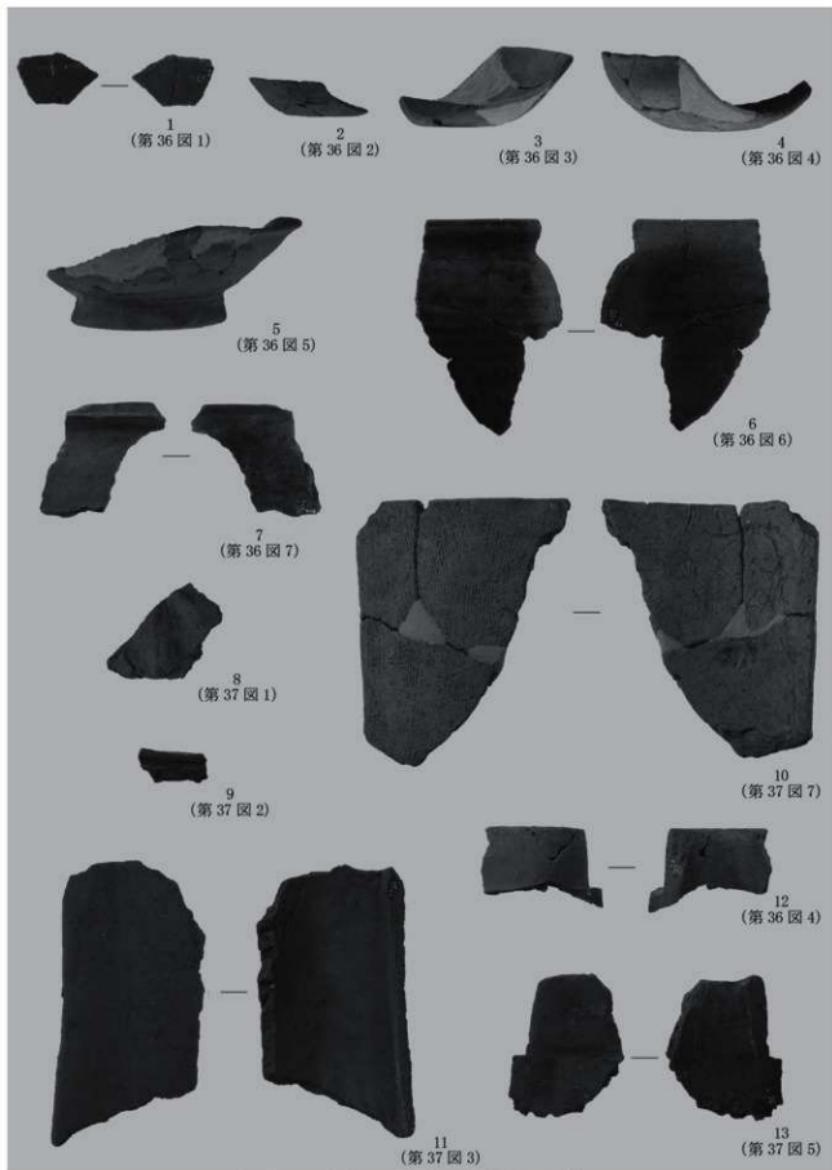
4. 1区北壁（南から）



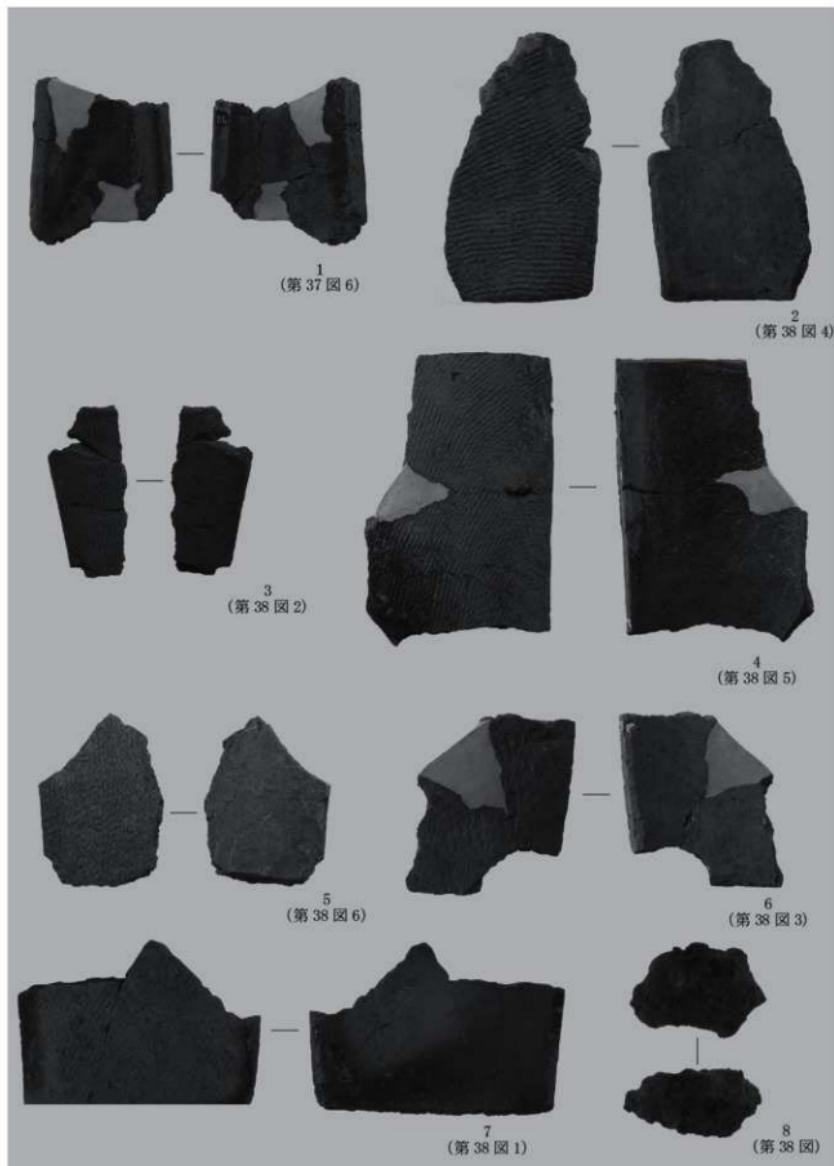
5. 調査区遠景（南西から）

写真図版 13 陸奥国分寺跡第31次調査（2）

I. 第31次調査



写真図版 14 陸奥国分寺跡第31次調査出土遺物 (1)



写真図版 15 陸奥国分寺跡第31次調査出土遺物 (2)

## 第4章 調査成果の普及と関連活動

今年度は新型コロナウイルス変異株が猛威を振るった影響により行事が中止となった学校も多く、一般の方の見学等も見合わせる場合が相次いだ。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により県をまたぐ移動の自粛もあり、県外からの資料調査および資料貸出も減少した。このような状況下であったが感染症対策を十分講じた上で実施できたケースもあり、実績を以下に記した。

### 1. 見学

| 年月日   | 見学場所      | 担当       | 対象者           |
|-------|-----------|----------|---------------|
| 7.19  | 郡山中学校ビロディ | 小浦       | 仙台市立八本松小学校6学年 |
| 8.5   | 郡山遺跡      | 及川・菅原    | 仙台市立東長町小学校    |
| 9.14  | 郡山遺跡      | 長島・妹尾・小浦 | (株) 東日本放送     |
| 9.15  | 郡山中学校ビロディ | 長島・小浦    | (株) 東日本放送     |
| 10.12 | 郡山遺跡      | 妹尾       | 個人            |

### 2. 出前講座・出前授業

| 年月日   | 内容                         | 担当     | 対象者                |
|-------|----------------------------|--------|--------------------|
| 6.10  | 仙台市に残る古い建物・すずめ踊りの歴史        | 元山     | 仙台市立東長町小学校3学年      |
| 6.11  | 郡山遺跡                       | 工藤     | 仙台市立八本松小学校6学年      |
| 6.17  | 発掘調査からみる古代の仙台～郡山遺跡と陸奥国分寺跡～ | 五十嵐    | 仙台市中田市民センター 中田老荘大学 |
| 6.24  | 郡山遺跡と地城に残るいぐね              | 元山     | 仙台市立東長町小学校3学年      |
| 7.15  | 陸奥国分寺跡ガイド 講座               | 五十嵐・小浦 | 仙台市加茂市民センター 老荘大学   |
| 8.6   | 陸奥国分寺跡ガイド（事前研修）            | 五十嵐    | JR 小鶴新田駅「小さな旅」     |
| 10.7  | 郡山遺跡・キャリア教育                | 元山     | 仙台市立東長町小学校6学年      |
| 10.11 | 天平の陸奥国分寺と東大寺               | 長島     | 富谷市日吉台公民館          |
| 10.27 | 陸奥国分寺跡ガイド                  | 小浦     | オフィスプランB           |
| 11.2  | 陸奥国分寺跡ガイド                  | 五十嵐    | 西遊旅行 大阪支店          |
| 11.24 | 発掘調査からみる古代の仙台～郡山遺跡と陸奥国分寺跡～ | 長島     | 原町地区連合町内会          |

### 3. 資料調査・貸出・見学

| 年月日       | 内容                | 申請者       |
|-----------|-------------------|-----------|
| 4.1       | 郡山遺跡出土遺物          | 個人        |
| 5.20      | 陸奥国分寺薬師堂写真        | 宮城県薬剤師会   |
| 6.10, 8.2 | 陸奥国分寺跡 軒丸瓦 平瓦     | 仙台市立八軒中学校 |
| 8.10      | 郡山遺跡出土木簡写真        | 木簡学会      |
| 9.21      | 「郡山遺跡Ⅱ期官衙復元図」ほか写真 | (株) 東日本放送 |
| 9.27      | 「郡山遺跡」写真資料2点      | (株) 東日本放送 |
| 9.29      | 陸奥国分尼寺跡 弔         | 個人        |
| 11.9      | 郡山遺跡写真            | 個人        |
| 11.19     | 郡山遺跡 土師器坏（関東系）    | 東北歴史博物館   |



郡山遺跡での植栽活動

### 4. 連携事業

| 年月日    | 内容                   | 対象者             | 備考      |
|--------|----------------------|-----------------|---------|
| 6月～    | 陸奥国分寺・尼寺跡ガイド研修会・清掃活動 | 聖和学園高等学校        | 月2回程度実施 |
| 11月～1月 | 陸奥国分寺跡ガイド            | 陸奥国分寺薬師堂ボランティア会 | 計7回実施   |
| 10月    | 郡山遺跡史跡地整備（植栽）        | 仙台市立郡山中学校生徒有志   | 60名以上   |

## 報告書抄録

| ふりがな                        | こおりやまいせき  |             |   |              |                            |                      |                  |      |
|-----------------------------|---|-------------|---|--------------|----------------------------|----------------------|------------------|------|
| 書名                          | 郡山遺跡 42   |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| 副書名                         | 令和3年度発掘調査概報 郡山遺跡・陸奥国分寺跡                                     |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| シリーズ名                       | 仙台市文化財調査報告書   |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| シリーズ番号                      | 第499集   |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| 編著者名                        | 姓尾一樹 元山祐一 庄子裕美  |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| 編集機関                        | 仙台市教育委員会  |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| 所在地                         | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 5-12 仙台市役所 上杉分庁舎 10階 TEL:022-214-8893 |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| 施行年月日                       | 令和4年3月31日   |             |   |              |                            |                      |                  |      |
| 所収遺跡名                       | 所在地   | コード         |   | 北緯           | 東経                         | 調査期間                 | 調査面積             | 調査原因 |
|                             |   | 市町<br>村     | 遺跡<br>番号  |              |                            |                      |                  |      |
| ごりやま<br>郡山遺跡<br>(第308次)     | 宮城県仙台市太白区<br>郡山三丁目  | 04104 01003 | 38° 13' 31"   | 140° 53' 35" | 2020.11.4 ~<br>2020.12.11  | 約 23 m <sup>2</sup>  | 記録保存<br>(個人住宅建築) |      |
| ごりやま<br>郡山遺跡<br>(第309次)     | 宮城県仙台市太白区<br>郡山五丁目  | 04104 01003 | 38° 13' 13"   | 140° 53' 39" | 2021.2.24 ~<br>2021.2.25   | 約 14 m <sup>2</sup>  | 記録保存<br>(個人住宅建築) |      |
| ごりやま<br>郡山遺跡<br>(第310次)     | 宮城県仙台市太白区<br>郡山二丁目  | 04104 01003 | 38° 13' 24"   | 140° 53' 25" | 2021.3.9 ~<br>2021.3.10    | 約 29 m <sup>2</sup>  | 記録保存<br>(個人住宅建築) |      |
| ごりやま<br>郡山遺跡<br>(第311次)     | 宮城県仙台市太白区<br>郡山五丁目  | 04104 01003 | 38° 13' 13"   | 140° 53' 39" | 2021.5.24                  | 約 10 m <sup>2</sup>  | 記録保存<br>(個人住宅建築) |      |
| ごりやま<br>郡山遺跡<br>(第312次)     | 宮城県仙台市太白区<br>郡山三丁目  | 04104 01003 | 38° 13' 31"   | 140° 53' 36" | 2021.7.26 ~<br>2021.8.5    | 約 18 m <sup>2</sup>  | 記録保存<br>(個人住宅建築) |      |
| ごりやま<br>郡山遺跡<br>(第313次)     | 宮城県仙台市太白区<br>郡山三丁目  | 04104 01003 | 38° 13' 22"   | 140° 53' 34" | 2021.8.18 ~<br>2021.10.19  | 約 275 m <sup>2</sup> | 保存目的             |      |
| むつこくさんじ<br>陸奥国分寺跡<br>(第31次) | 宮城県仙台市若林区<br>木ノ下二丁目   | 04103 01019 | 38° 15' 08"   | 140° 54' 04" | 2021.6.3 ~<br>2021.7.20    | 約 130 m <sup>2</sup> | 保存目的             |      |
| 所収遺跡名                       | 種別  | 主な時代        | 主な遺構  |              | 主な遺物                       |                      | 特記事項             |      |
| 郡山遺跡                        | 官衙跡<br>寺院跡<br>集落跡   | 飛鳥～平安       | 板塀跡、掘立柱建<br>物跡、溝跡、井戸跡、<br>土坑、堅穴住居跡  |              | 土師器、須恵器、瓦、金属<br>製品、土製品、石製品 |                      |                  |      |
| 陸奥国分寺跡                      | 寺院跡   | 奈良～平安       | 溝跡、井戸跡、土坑、<br>ピット   |              | 土師器、瓦、金属製品                 |                      |                  |      |
| 要約                          | 郡山遺跡  |             | 308次調査では堅穴住居跡1軒を検出した。遺構内からは土師器や須恵器が一定量出土した。<br>312次調査では方四町II期官衙の北辺大溝を検出した。<br>313次調査ではI期官衙の板塀跡、掘立柱建物跡、II期官衙の掘立柱建物跡等を検出した。このうちII期官衙の建物跡は西廻殿と推定されるものや西面廻付の建物跡の規模・配置を確認した。 |              |                            |                      |                  |      |
|                             | 陸奥国分寺跡  |             | 313次調査では寺地西辺を区画する溝跡を検出したが、北辺については確認できなかった。  |              |                            |                      |                  |      |

仙台市文化財調査報告書第499集

## 郡山遺跡42

—令和3年度登録調査概報—  
郡山遺跡・陸奥国分寺跡

2022年3月

発行 仙台市教育委員会  
仙台市青葉区上杉1丁目5-12  
仙台市役所上杉分庁舎10階  
文化財課 TEL 022(214)8893

印刷 モリタ印刷株式会社  
仙台市太白区郡山八丁目20-30  
TEL 022(246)0105㈹



